Ⅰ　実践事例

全 25 事例

〇国語

〇社会

〇理科

〇生活

〇音楽

〇美術

〇英語

〇総合的な学習の時間

小学校 1年

国語 『のりものカード』をつくろう

（「いろいろなふね」東京書籍）

単元のねらい

・文章に書かれている内容を、ことがらごとに正しく読み取ることができる。

つけたい情報活用能力

・必要な部分を書き抜く力　・図鑑に触れる

単元の指導計画（全 11 時間）

次	時	主な学習活動	教師の支援（●担任　◆司書教諭　◇学校司書）
1	1	○単元のめあてを知り、学習の流れを確かめる。 「のりものカード」をつくろう	●のりものの写真を見せたり、のりものについて知っていることを聞いたりしながら、本単元への興味が高まるようにする。
	2	○教材文を読んで初発の感想を交流する。 ○形式段落に番号を打つ。 ○漢字や語句の学習をする。	◆「のりものカード」を子どもに提示する。 ●分かったこと、もっと知りたいこと、知っていることなどを自由に話し合い、いろいろな反応を引き出す。
2	3	○全文を読み、「はじめ」「なか」「おわり」の3つのまとまりに分けてとらえる。 ○初めに提示したのりものカードから、教材文を読み取るための3つの視点を話し合う。	●「なか」の部分の内容がとらえやすいように、挿絵と繋げる。 ●読み取りの視点となる「やく目」「つくり」「できること」を色分けする。
	4	○「きゃくせん」について、3つの視点に沿って読み取る。	●「やく目」「つくり」「できること」の視点に沿ってまとめ、「のりものカード」の作り方へつなげる。
	5	○「フェリーボート」について読み取る。	●視点ごとに色分けしたワークシートを用意する。
	6	○「ぎょせん」について読み取る。	●挿絵や写真を利用させる。
	7	○「しょうぼうてい」について読み取る。	●視点に分けて音読させる。
3	8	○自分がカードを作りたいのりものを決め、それについて書かれた本を読む。	◆のりものを決め、調べることができるように、本の探し方やページの見つけ方を指導する。 ◇資料となる図書を準備し、資料の見方を助言する。
	9	○のりものカードを作るために資料を調べる。（本時）	●3つのポイントを意識しながら読み取れるように確認し、色別の付箋を用意する。 ◆どのように資料を読み取っていけばいいか分かるように、見本をもとに説明する。
	10	○のりものカードを作成する。	●◆個別に支援する。 ●ペアで説明したり、教師が聞いたりして多くの子どもが話す機会を持てるようにする。
	11	○できたカードを読み合う。	●小グループでカードを読み合い感想を交流する。

本時案 9/11

・本を読んで、乗り物の「やく目」「つくり」「できること」を見つけることができる。

学習内容と予想される児童の反応	教師の支援(●担任　◆司書教諭　◇学校司書)
1，本時のめあてを確かめる。 本でしらべて「のりものカード」を作ろう	●学習計画表を提示し、前時までの学習を振り返り、本時の学習の見通しを持たせる。
2，カードの例をもとに、どんなことを調べるか確認する。	●「やく目」「つくり」「できること」を調べることを確認させる。
3，司書教諭の話を聞き、調べ方について学習する。 ・色の説明　・付箋の活用	◆拡大した資料を提示し、実際に色分けした付箋を貼りながら説明する。
4，自分が調べたい乗り物について本で調べる。 ・大事な言葉に付箋を貼りながら調べる。	◆◇あらかじめ調べたい乗り物や本を把握し、一人一人が資料をもてるように準備する。 ●児童の状況に応じて変更ができるように、複数の乗り物を調べることができるようにしておく。
5，本時の学習の振り返りをする。	●できたかどうかだけでなく、難しかったところ、良い方法などもあれば発表し共有することで今後の学習に生かせるようにする。

他教科との関連

図鑑を使った学習全般
- **生活科**：1 年 「どきどき　わくわく　いきものはかせ」
  2 年 「生きもの　なかよし　大作せん」
- **国　語**：1 年 「どうやってみをまもるのかな」
  2 年 「ビーバーの大工事」　等

参考資料

・大解説！のりもの図鑑 DX　①③⑥(小野賀　実，ポプラ社)
・くらべてみよう！はたらくじどう車①～⑤(市瀬義雄，金の星社)
・ぜんぶわかる　はたらく自動車(中井精也，成美堂出版)
・ぜんぶわかる　はたらく自動車スーパーワイド百科(松本　真，成美堂出版)
・超はっけん大図鑑⑥(小野賀　実，ポプラ社)・乗り物ワイドブック(学研)
・はたらく車のしくみ・はたらき・できるまで①～⑤(こどもくらぶ，岩崎書店)
・はたらくじどう車スーパーずかん①～⑤(小野賀　実，ポプラ社)
・あつまれ！はたらくじどうしゃ(関口猪一郎，小峰書店)
・新はたらく自動車 100 点(池口英司，講談社)
・のりものなるほど図鑑　はたらくくるまばっちり！(小野賀　実，ポプラ社)

小学校 2年

国語

「『おもちゃの作り方（説明書）』を 1年生にプレゼントしよう」
（「しかけカードの作り方」「おもちゃの作り方」光村図書）

単元のねらい

・分かりやすい説明の工夫を見つけ、それを用いて、手順に沿っておもちゃ作りを説明する文章が書ける。

つけたい情報活用能力

・必要な部分を書き抜く力

単元の指導計画（全12時間）

次	時	主な学習活動	教師の支援（●担任 ◆司書教諭 ◇学校司書）
1	1	○学習課題を設定する。 「1年生に、『おもちゃの作り方』をプレゼントしよう」 ○「しかけカードの作り方」を読み、「おもちゃの作り方」の説明文を書くまでの学習の見通しをもつ。	●単元を通して意欲的に学習に取り組むことができるように、児童の思いや言葉から学習課題を設定する。 ●実際にカードを見せ、教材へ興味をもたせる。
2	2 3	○写真を見て、作り方の順序を考える。 ○〈作り方〉を読みながら、しかけカードを作る。	●写真の効果について気づくことができるようにする。 ●作り方の順番がわかった言葉、写真を見てわかったところなどに線を引かせ、説明の工夫点に注目させる。
	4 5	○教材文の＜作り方＞の部分で、どんな言葉や表現が説明を分かりやすくしているか考え、分かりやすい説明のしかたを整理する。	●ワークシートで、前時に線を引いたところを発表し合いながら、説明の工夫を表にまとめ整理しやすくする。
	6	○教材本文で使われていた分かりやすい説明のしかたを見つけ、まとめる。	●説明の工夫を確認しやすくするために、ワークシートにまとめチェックリストを作成する。
3	7	○1年生に作ってほしいおもちゃを本で調べる。 ・材料が用意しやすいことや簡単に作れることなどのポイントを考える。	◇複数の資料から選択できるように予め図書を用意しておく。 ●1年生が作ることを想定していることを押さえる。
	8	○分かりやすい説明書の例として教科書に載っている「けん玉の作り方」を読んで、分かりやすい説明の工夫がどのように使われているかを確かめる。	●分かりやすい説明の工夫を見つけやすくするためにチェックリストを掲示する。
	9	○おもちゃの説明書に情報を付け加える。	●チェックリストを用意させる。 ●必要な情報を付箋に書かせ、説明書に貼らせる。 ◆付箋への書き方の例を示し、活動への見通しを持たせる。
	10	○説明書の図をかく。	◆図をかく時のポイントを示し、情報を整理することができるようにする。
	11	○〈作り方〉の説明を書く。（本時）	◆図と文が対応しているかを確認しながら書き進められるように、例を示す。
	12	○説明書を完成させる。	●項目ごとに色を変えた短冊カードを用意し、まとまりを意識して内容を整理することができるようにする。

本時案 11/12

・分かりやすさに気をつけて、適切な順序で説明を書くことができる。

学習内容と予想される児童の反応	教師の支援（●担任 ◆司書教諭 ◇学校司書）
1，前時までの学習を振り返り学習課題を確認する。 分かりやすい〈作り方〉を書こう ＜分かりやすい説明の仕方＞ ＊「まず」、「次に」のような、順番を表す言葉が必要。 ＊何cmや何個みたいに数字を入れるといい。 ＊同じ作り方は「同じように」と書くといい。 ＊言葉で説明しにくいところは「図のように」とすればいい。	●分かりやすい説明の工夫を確認した後、拡大して掲示し、どのような工夫があったか思い出せるようにする。 ●本時の学習の流れを掲示し、見通しをもって学習に臨むことができるようにする。 ◆図と文が対応しているか確認しながら書き進められるように、例を示す。
2，作り方の説明を書く。	●順序良く適切なまとまりで書けるようにワークシートを準備する。 ●説明の工夫が書かれているチェックリストを用意させる。 ●◆書き方の分からない児童には、最初に何をするのか、次に何をするのか問いかけ、書くことが思いつくようにする。
3，説明文を友だちと読み合い、書き方の良かったところを伝え合う。 ＊絵と文が合っていて分かりやすかったです。 ＊詳しく書いてあって良かったです。 ＊本の説明書より言葉が簡単でした。	●ペアで良かったところを伝え合わせ、間違いや説明不足に気がついたところは助言もさせる。 ●全体で紹介し、互いに頑張りを認め合えるよい雰囲気になるようにする。
4，本時の学習の振り返りと、次時の確認をする。	●次回はワークシートに書いた説明を清書することを伝え、次時への意欲を高める。

他教科との関連

・**生活科**：2 年 「うごく うごく わたしのおもちゃ」
＊国語科で、おもちゃの作り方の説明書を作り、生活科で、実際に作ってみる。

小学校 3年

国語 「はたらく犬についてしらべよう」（「もうどう犬のくんれん」東京書籍）

単元のねらい

・目的に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、書かれている内容を要約することができる。

つけたい情報活用能力

・学習テーマの選択　・情報の要約の仕方　・さまざまなまとめ方

単元の指導計画（全 12 時間）

次	時	主な学習活動	学校図書館の活用
1	1	○学習の見通しをもつ。 ・働く犬やもうどう犬について知っていることを話し合う。 ・リーフレットのモデルを見て、学習の見通しをもつ。 ・働く犬についての本を紹介してもらう。	・図書の紹介（学校司書） ・リーフレットの特徴
2	2〜6	○教材文を読み、内容を要約してリーフレットにまとめる。 ・教材文を「はじめ」「中」「終わり」に分け、大まかな文章構成をつかむ。 ・リーフレットの形式や各ページに書く内容を大まかに考える。 ・訓練の順序や、犬の特性ともうどう犬の仕事との関係を押さえながら、もうどう犬の訓練の様子を読み取る。 ・段落のまとまりごとに、文章の要点や細かい点に注目し、内容を分かりやすく要約してリーフレットにまとめる。	・要約の仕方
3	7〜12	○働く犬について知りたいと思ったことを、図書館の資料で調べる。 ・働く犬について調べたいと思ったことを話し合い、課題を決める。 ・調べて分かったことを書き出す。 ○調べたことを要約してリーフレットを作り上げる。 ・課題についての答えになる部分や、大事だと思うところを要約し、リーフレットの残りのページを完成させる。（本時　11/12） ○リーフレットを読み合う。 ・互いのリーフレットを交換して読み合い感想を伝え合う。 ○学習の振り返りをする。 ・要約の学習を振り返る。	

本時案 11/12

・調べた情報の中からだいじな言葉や文を選び、要約することができる。

学習内容と予想される児童の反応	教師の指導と手立て
1，本時の課題と内容を確認する。 調べたことを要約して、「○○犬とはどんな犬？」をまとめよう。	●前時までの学習を想起し、本時の流れと課題を確かめることで、見通しをもたせる。
2，調べたことの中から、大事な言葉や文を選ぶ。 ・情報カードに書いた文章を音読する。 ・大事な言葉や文に線を引く。 ＊答えになることが書いてある文だから線を引こう。 ＊この文は必要ないな。	●課題の答えになるような言葉や文を見つけるという視点を与える。
3，調べたことを分かりやすく要約する。 ・言葉を補ったり書き換えたり、つなぎ言葉を使ったり省いたりして短くまとめる。 ＊ここは詳しく書いてあるけれど、はぶいてもいいな。 ＊この言葉は変えて分かりやすくしてみよう。	●要約の仕方を確認する。 ●要約することが難しい児童には、接続語を入れてつなげてみることを助言する。
4，要約した文章を読み合って確かめ合う。 ・隣どうしで読み合い、つながりの悪いところや誤字などがないか確認し合う。 ・いいと思ったところを伝える。	●線を引いたところが分かりやすくまとめられているか確かめ合わせ、友達の要約の工夫点に気づくようにする。
5，要約した文章を発表する。	●どのように補ったり書き換えたり、つないだりしたのかを、全体で共有できるようにする。
6，本時の学習の振り返りをする。	●本時の学習を評価し次時の活動を知らせることで、意欲をつなげるようにする。

パスファインダー

インターネットでさがす

インターネットでもしらべることができます。
むずかしい字がつかわれていたり、ないようが３年生にはむずかしいことが書いてあったりすることもあるので、本ではどうしてもしらべられないことがある時には、りようしましょう。

★それぞれの「○○犬」ということばで「けんさくする」と、その犬のことが書かれているホームページがしょうかいされますよ。

パンフレットでしらべる

★島根あさひ訓練センター（パピネス）
島根県の浜田市には、２００８年「島根あさひ訓練センター」という施設があります。そこでは、もうどう犬の訓練がおこなわれています。
ここは、「パピープロジェクト」といって日本ではじめて「受刑者（つみをおかして刑務所にいる人）」がもうどう犬の候補犬（パピー）をそだてるということをおこなっている施設です。このパンフレットでもしらべられますね。

＊インターネットのページでもしらべられます。
日本盲導犬協会のホームページ＞島根あさひ訓練センター＞パピープロジェクト https://www.moudouken.net/center/shimane/puppy-project/

★ほかにも「ほじょ犬」というリーフレットなどがあります。

ここにしょうかいしたほかにも学習の役に立つものがあります。
いろいろなしりょうをよく読んでみましょう。きっと、あなたの気になっている答えがみつかることでしょう！

パスファインダー（しらべる資料さがしのナビ）

「パスファインダー」というのは、あることをしらべる時にやくにたつ本などの資料をわかりやすく説明したチラシです。本やインターネットなどいろいろな資料があります。このパスファインダーをつかって、しらべてみましょう！！

３年　名前（　　）

はたらく犬について
しらべるしりょうをさがすために…

もうどう犬は、目の不自由な人のために「はたらく犬」ですね。ほかにも人間のやくにたっている「はたらく犬」がたくさんいます。「はたらく犬」についてしらべてみましょう。

手がかりになる**キーワード**をさがすことが情報をあつめるポイント！

もうどう犬　聴導犬　介助犬　訪問活動犬　災害救助犬　警察犬
麻薬探知犬　船内探知犬　爆発物そう査犬　地雷探知犬　牧羊犬　パトロール犬　交通安全犬　猟犬　番犬　そり犬　ガイド犬　プリズンドッグ
モデル犬　セラピー犬
訓練　ハーネス　パピーウォーカー　ブル　ハンドラー　認定試験

小学校 4年

国語

「ミニ説明文でくらしの中の和と洋のよさアピール会をしよう」
（「くらしの中の和と洋」東京書籍）

単元のねらい

・目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を引用したり要約したりすることができる。

つけたい情報活用能力

・百科事典の使い方　・引用の仕方

単元の指導計画（全 14 時間）

次	時	主な学習活動		教師の支援
1	1 2 3	◎くらしの中の和と洋に関心をもち、単元の見通しをもつ。 〇くらしの中にある「和」と「洋」の本を読む。 〇百科事典の使い方を知る。	和と洋の本　並行読書	・本の紹介（学校司書） ・百科事典の使い方指導（司書教諭）
2	4 5 6 7	◎教材文を読み、「和」と「洋」の比べ方や文章構成を読み取り、それぞれのよさについて引用したり要約したりする。 〇「和」と「洋」をどのように比べているか、文章構成を読み取り文章構成図に整理する。 〇「和」と「洋」のよさについて、教材文を引用したり、要約したりして、自分の考えを付箋にまとめる。		
3	8 9 10 11 12 13 14	◎取り上げる題材と調べる観点を決め、必要な情報を集める。 〇教科書の文章で読み取ったことをもとに、調べる題材を決める。 〇調べたい題材について、百科事典を用いて情報を得る。 〇必要な情報を集めて、付箋に書く。 ◎集めた情報を引用したり、要約したりしながら、説明文にまとめる。 〇情報を付箋に整理したものでよさを確認し合い、文章構成図に整理する。（本時） 〇説明文にまとめ、和と洋のよさのアピール会をする。 ◎学習の振り返りをする。		・

本時案 11/14

・「アピールカード」を用いて自分が選んだ和と洋のよさを友達と確かめ合い、自分の考えを深めることができる。

学習内容と予想される児童の反応	教師の指導と手立て
1，本時の学習課題を確認する。 「アピールカード」で和と洋のよさを確かめ合おう。	●本時の流れを示すことで、学習の見通しをもてるようにする。
2，「アピールカード」をもとによさを確かめ合う。 *この情報だとよさが一番伝わると思うよ。 *これは使い方についてのよさだね。 *こんなよさもあるんだね。	●自分が使った図書資料も準備させておくことで、調べたことを振り返ることができるようにする。 ●自分が選んでいた付箋2つには印をつけさせておくことで、確認し合った後で情報を修正しやすいようにする。 ●説明文の構成につなげられるように、まとまりごとに「小見出し」をつけるようにする。
3，選んだ情報を「説明文の家」に整理する。 ＊「説明文の家」の本論に「着方」と「使う場面」の2つについて整理するといいな。	
4，学習の振り返りと次時の見通しをもつ。 ＊友達と確認し合ったことで、自分の選んだ情報でよさが伝わることが分かったよ。 ＊友達が言っていたよさも入れると、さらによさをアピールできることが分かったよ。 ＊次はいよいよ、説明文の家を使って、ミニ説明文を書くんだな。	●学習の振り返りには、友だちとよさを確認し合ったことにより、自分の考えの深まりや変化について、ワークシートに書くことを伝える。 ●次時は、文章構成図をもとに、よさをアピールするための説明文を書くことを伝える。

参考資料

・手で食べる？（森枝卓士,福音館）　・箸の絵本（兵左衛門,農文協）　・風呂敷（森田知都子,文溪堂）
・再発見！くらしのなかの伝統文化1衣服と日本人（市川寛明,ポプラ社）　・昔のくらし（田中　力,ポプラ社）
・再発見！くらしのなかの伝統文化2食事と日本人（市川寛明,ポプラ社）
・再発見！くらしのなかの伝統文化3住まいと日本人（市川寛明,ポプラ社）
・「モノ」のはじまり百科②くらし・生活用品（山口昌男，日本図書センター）
・「和」の名前絵事典（三宮庄二,PHP）　・衣食住の歴史（西本豊弘,ポプラ社）
・日本人のくらし大発見！2住まいの知恵（新谷尚紀,学研）　・日本の家・北から南まで・（織田憲嗣,福音館）
・昔の道具 うつりかわり事典（三浦基弘,小峰書店）　・ふろしき大研究（宮井株式会社,PHP）
・世界の衣食住②ヨーロッパの食べ物（江上佳奈美，小峰書店）
・世界の衣食住⑦ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアの家（佳元拓実　馬場ユキヲ，小峰書店）
・文化のちがい 習慣のちがい③ ウキウキ生活スタイル（須藤健一,学研）
・文化のちがい 習慣のちがい⑥ アレコレ資料編（須藤健一,学研）　・まるごと日本の道具（面矢慎介,学研）
・こんな家にすんでたら 世界の家の絵本（ジャイルズ・ラロッシュ,偕成社）
・昔のくらしの道具事典（小林克,岩崎書店）　・日本のくらしの知恵事典（神野善治,岩崎書店）
・くらべてみよう！昭和のくらし3生活（新田太郎,学研）
・日本のくらし絵辞典年中行事から伝統芸能まで（PHP）
・くらべてみよう！日本と世界の食べ物と文化（石毛直道,講談社）

小学校 5年

国語

「和の文化祭を開こう」
（「和の文化を受けつぐ」東京書籍）

単元のねらい

・伝えたい内容や目的に合わせ、話の構成を工夫しながら、資料を活用して説明することができる。

つけたい情報活用能力

・目的に応じて、必要な情報を取捨選択する

単元の指導計画（全 15 時間）

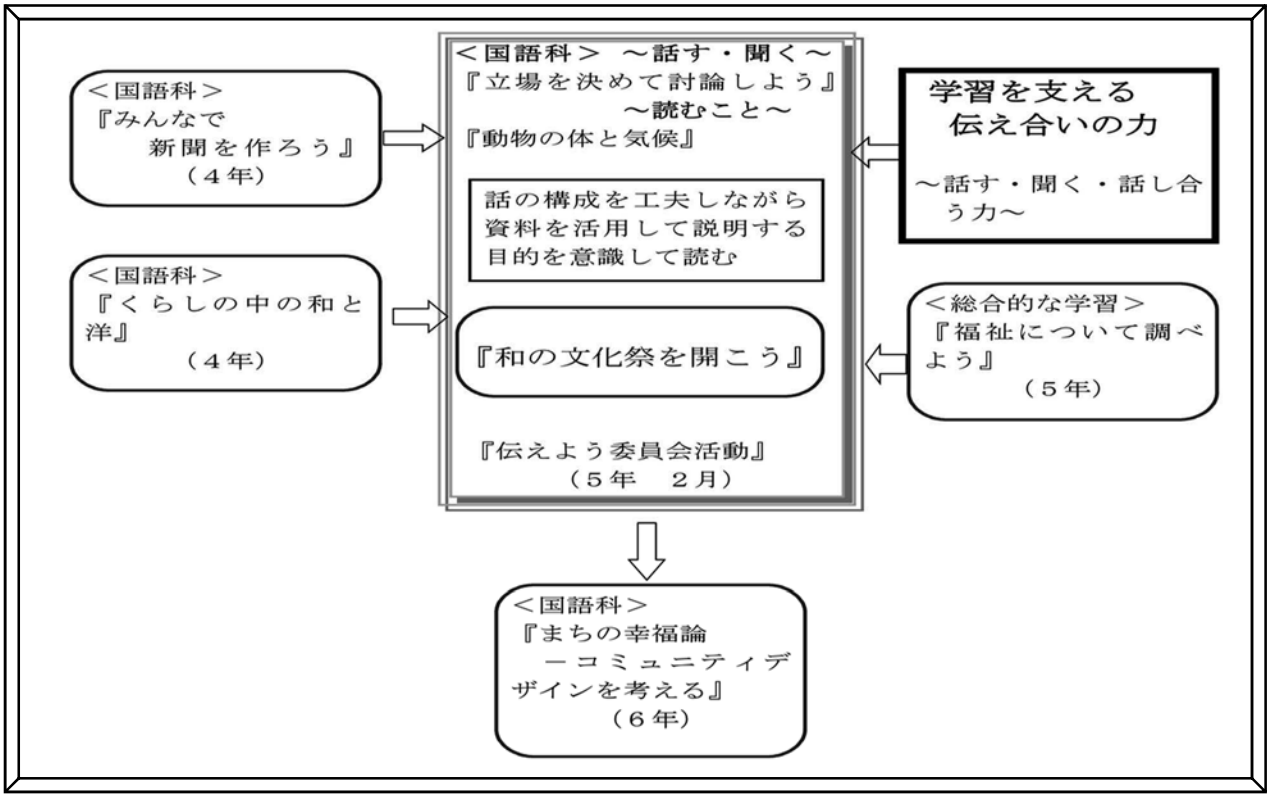
次	時	主な学習活動	教師の支援（●担任　◆司書教諭　◇学校司書）
1	1	○教材文を通読し、和の文化について調べて発表するという学習課題について確認し、学習の見通しをもつ。	●「和の文化」に関わる資料を準備する。 ◇ブックトーク　◆マッピング
2	2	○序論・本論・結論の構成をとらえ、筆者の伝えたいことを読みとる。	●既習の力を活用し、文章全体から大きな構成をとらえさせる。
	3	○本論から三つの観点をとらえ、それぞれの説明の仕方を読みとる。	●「和の文化祭」での説明に活かすという目的をもたせながら、三つの観点の説明の仕方をとらえさせる。
	4	○資料の効果を考える。	●写真や年表などの効果についてとらえ、「和の文化祭」に活用する観点を押さえる。
3	5	○グループで発表する文化を決めて、計画を立てる。	●並行読書を本時までに行い、計画を立てさせる。 ・観点　・調べること　・調べる方法 ◆いろいろな情報収集の方法の指導
	6	○計画に沿って調べ、情報を集め、集めた情報を観点別に整理する。	●調べたことは、観点別に情報カードに記入させ、整理させる。
	7		
	8	○情報を選び、説明の順序を考えて構成し、資料の内容に合わせて形式を工夫する。	●「流れ」→「説明の内容」→「時間」の順に構成表にまとめさせていく。 ◆資料の活用の仕方、著作権についての指導
	9		
	10	○モデル文をもとに、説明のときのポイントをとらえる。	●教科書の原稿から、わかりやすく説明する言葉、提示方法のポイントをとらえさせる。
	11	○発表原稿を作成する。	●これまでの学習を生かし、発表原稿を作成させる。
	12	○グループ内で発表の練習をする。	●説明の3つの観点や資料の提示を視点にして、相互評価しながら改善させる。
	13	○「和の文化祭」のリハーサルを行い、意見を交流する。（本時）	●学級で発表を聞き合い、改善することなどを助言したり、感想を伝えたりして発表を振り返らせる。
	14	○リハーサルでのアドバイスを思い出し、原稿を再構成していく。	●アドバイスや教材文での学習を参考に原稿を修正させる。
	15	○「和の文化祭」を開く。	●お互いの良さを認め合っていくようにする。

本時案 13/15

・伝えたいことを意識して、調べたことが伝わるように資料を活用して説明したり、自分が調べたことと比べながら意見を述べたりすることができる。

学習内容と予想される児童の反応	教師の支援（●担任　◆司書教諭　◇学校司書）
1，本時の学習課題と流れを確認する。 調べたことを発表し、気づいたことを伝え合おう。	●本時の課題を提示し、流れを確認する。
＜話す側＞ ・声の大きさ　・話す速さ　・目線や体の向き　・間の取り方 ・資料の提示（タイミング、方法）	●話す側の観点を子どもに出させながら提示する。
＜聞く側＞ ・わかりやすい構成か　・内容にあった資料の形式か ・資料の提示はどうか（興味がもてたか） ・反応を見て説明したか	●聞く側の観点については、ワークシートを準備し、それぞれの観点に沿って各グループの発表内容がそれぞれどうだったか評価し合うことができるようにする。
2，グループで調べたことを発表し、感想や意見を伝え合う。	●改善点だけでなく、自分達の発表にも生かすことができるようなことも評価することで、効果的な発表の良さを実感させる。
3，本時の学習の振り返りをする。 自己評価 相互評価	◆資料の使い方、提示の仕方の指導 ・ワークシートに「自己」「相互」についての振り返りを行うようにする。 ・児童の評価を認め、気づかない点について助言をする。

教科の関連



小学校 5年

国語

「新聞記事を読み比べよう」
（「新聞記事を読み比べよう」東京書籍）

単元のねらい

・目的に応じて、文章を読み比べ、書き手の意図を読み取ることができる。

つけたい情報活用能力

・新聞、雑誌の利用

単元の指導計画（全６時間）

次	時	主な学習活動と教師の支援（●担任　◇学校司書）
1	1	◎新聞の構成を理解し、今後の学習見通もつ。（本時） ・記者の話を聞き、新聞の役割や構成への理解を深める。　・学習計画をたてる。 ●実際にモデルとなる活動を演示し、学習の見通しをもたせる。 ●地元紙の新聞記者をゲストティーチャーに招き、心がけていることや工夫点などについて話してもらう。 ◇児童に興味のありそうな新聞記事の切り抜きを準備する。
2	2	◎二つの新聞記事を様々な観点から読み比べる。 ○内容の共通点をとらえる。　・記事の内容を読み、二つの記事の共通点を見つける。
	3	○見出し、リード本文を比較し、書き手のメッセージを読み取る。
	4	○写真を読み解き、効果を考える。
3	5	○記事と写真に見合った見出しを書く。 ・複数の切り抜きの中から、自分で記事を選び、見出しを考える。 ○調べたい題材について、百科事典を用いて情報を得る。
	6	○学習のまとめをする。　・考えた見出しを、根拠を明らかにしながら発表し、評価し合う。

本時案 1/6

・新聞の構成を理解し、今後の学習の見通しをもつ。

主な学習活動と予想される児童の反応	教師の支援（●担任　◇学校司書）
1，新聞記事について知っていることを発表しあう。 ＊いろいろな出来事がわかる。　＊字が小さい。 ＊写真が載っている。　＊見出しがある。	◇新聞の実物を用意しておく。
2，新聞の特徴や編集の仕方、記事の書き方などを理解する。 ・新聞の構成や役割、記事の書き方、写真の役割、記者の思いなどについて地元新聞社の記者の方から話を聞く。	●新聞社の記者の方にきていただく。
3，教材のねらいを確かめ、終末の活動に向けて意欲をもつ。 ・新聞記事を読む。 ・T2との役割演技で本学習の終末のモデルを示す。 ・新聞記事に見出しをつける。 ・その根拠を記事の中から説明する。	◇児童が読みやすく関心をもって取り組めるように、地元の記事を準備する。 ●内容を読み取りやすいように難しい漢字にはふり仮名を振っておく。 ●◇学習計画を立てる際の手がかりになるように新聞を拡大しておく。
4，今後の学習の見通しをもつ。 ・記事にふさわしい見出しをつけるためには、記事のどこに着目すればよいかを確認する。	●新聞の記述内容を確認しながら学習を進めさせる。

小学校 6年

国語

「町の未来をえがこう」
（「町の幸福論～コミュニティデザインを考える」東京書籍）

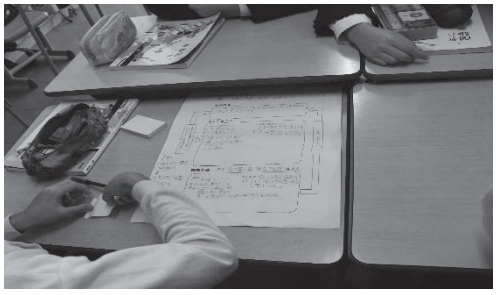
単元のねらい

・意図を明確に伝えるために、資料を効果的に活用して発表することができる。
・複数の資料から読み取った情報を、目的に応じて活用することができる。

つけたい情報活用能力

・課題に応じた情報の収集　・資料を効果的に活用したプレゼンテーション

単元の指導計画（全 15 時間）

次	時	主な学習活動	教師の支援（●担任◆司書教諭◇学校司書）
1	1	◎教材文を読み、学習の見通しを立てる。 **未来の竹矢についてプレゼンテーションで紹介しよう** **～人々がつながる公民館の活動～** ○自分たちの住む町にどんな取組があるのか考える。 ○プレゼンテーションの仕方について確認する。	●コミュニティデザインを理解させる。 ◆プレゼンテーションの意味や仕方について説明する。 ◇並行読書用の関連リストを作成する。
	2	◎公民館では、どのような活動が行われているのか調べる。	●自分自身のこととして考えられるよう、自分が参加する活動について調べさせる。
2	3 4 5 6	◎「町の幸福論」を読み、本文の内容を読み取る。 ◎図や表などの資料の効果的な用い方を知る。 ◎文章の要旨を読み取り、筆者のメッセージを踏まえて、町の未来についての自分の考えをもつ。 **並行読書**「公民館だより」「コミュニティーデザイン」に関する本	●文書構成図を使って、序論、本論、結論の構成や内容を確かめさせる。 ●資料の効果やよさを、プレゼンテーションに生せるようにする。 ●文章の要旨を読み取り、自分の町と関連づけながら自分の考えを書けるようにする。
3	7	◎ビデオを見て、プレゼンテーションのイメージをもつ。 ◎テーマごとにバックキャスティングを考える。 	◆ビデオの内容をバックキャスティングで表す。 ●自分たちがやるべきことと、未来のイメージが明確になるようにさせる。 ◆必要な資料を選ぶことができるようにする。 ◇必要に応じて、適切な資料を提示する。
	8	◎バックキャスティングをもとにやるべきことを確認し、プレゼンテーションに必要な資料を考え、調べる計画を立てる。（本時）	
	課外	◎インタビューやアンケートを行い、情報を集める。	●調べたいことを明確にさせる。
	9 10	◎グループで集めた情報を整理し、提案することや事例を決める。 ○自分たちの描く未来の町の姿を、短い言葉で表す。 ◎事例に関連する資料を考える。	●◆◇調べた情報や事例を事例カードに整理させる。 ●◆◇グループで集めた情報を整理しながらどんな提案をするか話し合わせる。
	課外	◎インタビューやアンケートを行い、情報を得る。	

次	時	主な学習活動	教師の支援（●担任◆司書教諭◇学校司書）
	11	◎グループ内で構成内容を考え、構成メモにまとめ、発表に必要な資料を作成する。	●◆◇話す順序を意識させながら、短い言葉でまとめさせる。 ●話の一まとまりにつき一資料とさせる。
	12	◎構成メモをもとにプレゼンテーションの練習を行う。 〇説得力のある話し方の工夫を考える。 〇グループで互いの発表を聞き合い、質問や助言をし合う。	●◆◇聞き手を引きつける話し方や資料の見せ方ができるようにするため、工夫したい点を押さえさせる。
4	13 14	◎自分たちがえがいた「町の未来」についてのプレゼンテーションを行う。 〇他の班の発表を聞く。 ＜聞くポイント＞・発表の構成のわかりやすさ ・資料の使い方の工夫	●聞き手を意識できるように、聞き手の反応を確かめながら話すように意識させる。 ●聞き手に示す聞くポイントが、話す側にとっての話すポイントになることを押さえる。
	15	◎単元の学習を振り返る。	●他のグループからの感想や助言、提案を確かめ、自分たちの発表を振り返らせる。

本時案 8/15

・プレゼンテーションに必要な資料を考え、グループで資料収集の計画を立てることができる。

学習内容と予想される児童の反応	教師の支援（●担任◆司書教諭◇学校司書）
1，本時のめあてを確認する。 プレゼンテーションに必要な資料を考え、調べる計画を立てよう。	●ビデオのバックキャスティングの図をもとにして説明することで、本時に行うことが明確になるようにする。
2，プレゼンテーションに効果的な資料について知る。 ・インタビュー　・アンケート　・写真 ・インターネット、たより、図書資料	●事前の学習や並行読書で分かったことを情報カードに記入しておき、活動内容が想起できるようにする。 ◆プレゼンテーションに効果的な資料について説明する。
3，調べる方法や分担を話し合い、調べる計画を立てる。 ・インタビュー（公民館、参加者） ・アンケート（家庭、子ども、参加者） ・写真（活動の場所、様子） ・インターネット、たより、図書資料（他の公民館）	●グループで作成したバックキャスティングの図をもとにして考えさせ、適切な資料を選択できるようにする ●◆◇グループを回りながら助言することで、より適切な資料を選択することができるようにする。 ◇必要に応じて適切な資料を提示する。
4，本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	●次時は、インタビューや情報収集していくことを伝える。

他教科との関連

・**総合的な学習の時間**：「地域（ふるさと）学習」
・プレゼンテーションは、すべての教科の発表に応用ができる

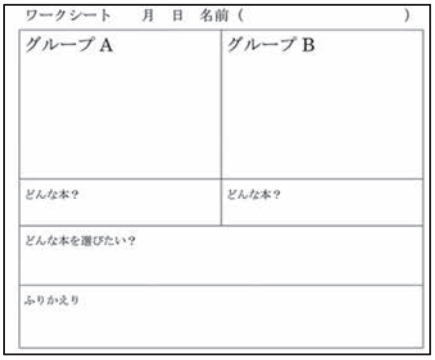
特別支援学級（小学校）　**国語**　**「冬休みに読む本を工夫して選ぼう」**

単元のねらい

・自分の読書パターンを認識し、どのような本を好んで読んでいるかを知ることにより、違うタイプの本も探して読もうとする。
・望ましい読書習慣を身につける。

本時案（全１時間）

・今まで借りた本を分類し、自分が借りている本の傾向をつかむ。
・新しいジャンルの本や少し難易度の高い本でも挑戦して読もうとする。

学習内容と予想される児童の反応	教師の指導と手立て
1，あいさつ ○本時の学習内容を知る。 同じ仲間の本に分けてみよう ○6年生になって読んだ本を分類し、借りた本のカードを分類する。 ・面白かった本とそうでない本 ・絵本とそれ以外	●学習のめあてを書く、または、紙に書いておく。 ●今まで読んだ本を分類するワークシートを作っておく。 
2，ワークシートに分類したものについてのコメントを書こう	●ワークシートのコメント欄を大きめにとる。
3，お互い発表してみよう ○どんなふうに分けたのか、発表する。 ○分けた本の中で、一部紹介する。 ○意見交換する。	●2人一組でペアにさせ、情報交換をさせる。 ●お互いの発表の中で気づいたことなどの意見交換を行わせる。
4，先生の話を聞こう ○担任による、2学期に読んだ本とその感想を聞く。 ○学校司書の読書生活の様子を聞く。	●普段、自分からは手に取らないようなジャンルの本も意図的に入れて何冊か用意し、1～2冊について担任の思いや、学校司書の読書の様子について話す。
5，自分が読んでみたい本を探そう ○本を探す観点を決め、実際に自分が読んでみたい本を探す。	●自分に合わない本は無理して読まないように、声をかける。
6，選んだ本について発表しよう ○なぜ、その本を選んだのかを、みんなに伝える。	

中学校 2年

国語

「いにしえの心を訪ね、思いを伝えよう」（「仁和寺にある法師ー『徒然草』より」（光村図書））

単元のねらい

・人物像や場面の状況を捉えながら、作者のものの見方や感じ方を読み取ることができる。
・「パンフレット作成」を通して、効果的な表現や説明を工夫し、自分の考えをまとめることができる。

つけたい情報活用能力

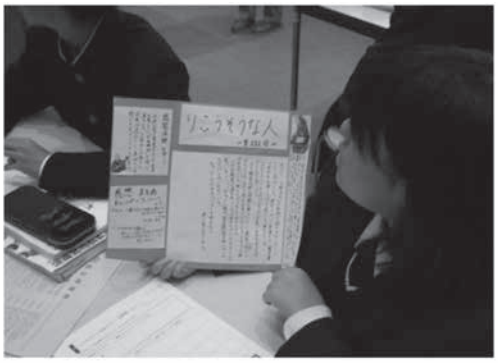
・集めた情報を比較・選択する力　・パンフレットによる表現方法

単元の指導計画（全6時間）

次	時	主な学習活動	教師の支援（●教科担任　◇学校司書）
1	1	◎『徒然草』序段と第五二段を読み、内容を捉え、作者の考え方に触れる。	●現代語訳を手がかりにして、執筆の動機や逸話の教訓などを考え、要約させる。
	2	◎教師のパンフレット作品を参考にして自分のパンフレット作成の段を決める。	●教師のモデルを示すことで、自分たちの活動のゴールをイメージさせる。 ◇中学生に分かりやすい図書資料を準備する。 ●自分が作成する段が見つけられない生徒には、共感しやすく、分かりやすい段を紹介し、選ばせる。
2	3 4	◎パンフレットを作成する。 〇選んだ段のテーマや人間観、人生観を読み取り、兼好法師の主張や教訓などを、付箋に書き込む。 〇あらすじを要約する。 〇パンフレットの構成を考え、まとめる。	●付箋に書き込ませることで、パンフレットを作る際のレイアウトにも使えるようにする。 ●図書資料の図説や写真による説明や表現も参考にして、理解させる。
3	5	◎パンフレットを読み合い、意見交換をする。 〇自分のパンフレットについて読み取ったテーマを話す。 〇メモを取りながら他の人の話を聞く。 ◎友達の意見を参考に、自分の取り上げた段についての考えをまとめ、パンフレットを完成させる。	●相手に分かりやすいパンフレットを作ったり、自分の考えを確かなものにさせたりするために、2人ペアで読み合わせ、気づいたこと伝え合わせる。
	課外	◎パンフレットを持ち帰り、家庭で兼好法師の主張や教訓について話す。	
	6	◎グループでの意見交流を通じて、自分の捉えた兼好法師の考え方やものの見方についての考えをまとめる。（本時）	●兼好法師の主張や教訓をどう考えるかをお互いが語り、聞き合えるようグループ内で支援する。

本時案 6/6

・取り上げた段のテーマについての話し合いを通して、根拠を明確にしながら、自分の考えをまとめることができる。

学習内容と予想される児童の意識や活動	教師の指導と手立て
1，本時の学習目標と学習活動の流れを確認する。	●本時の学習のねらいと学習活動の見通しがもてるよう簡潔に板書し、解説する。
2，パンフレットにまとめた主張や教訓について確認する。	●要約や段の紹介の確認をし、注目すべき表現を押さえながら得た情報や意見を整理できるように支援する。
3，グループでパンフレットに取り上げた段について話し合う。	●兼好法師の主張や教訓をどう考えるかをお互いが語り、聞き合えるようグループ内で支援する。
	
4，作者のものの見方・考え方についての考えをまとめる。	●話し合いの内容と古文の内容とを確認し、友達からの感想を取り入れて考えをまとめるよう支援する。
5，本時の学習を振り返り、分かったことや感想を書く。	●振り返りの際、時間があれば数名に感想発表を促す。

中学校 3年

国語

「編集して伝えよう『文化』のミニ雑誌」（「編集して伝えよう」（東京書籍））

単元のねらい

・知識や体験をもとに、構成を工夫し、内容を膨らませて文章を書くことができる。
・書いた文章を読み返し、推敲して誌面を仕上げることができる。

つけたい情報活用能力

・情報を収集・整理する力　・情報カードの使い方

単元の指導計画（全７時間）

次	時	主な学習活動	教師の支援（●教科担任　◇学校司書）
1	1	◎グループのテーマと個人の題材を決める。	●◇日本のどの文化を取り上げるのかを決めるために、図書資料を用意する。
2	2	◎情報カードの使い方を知り、練習する。 〇練習用の資料で、書き方を学ぶ。 **情報カードの書き方のポイント** ①　項目は疑問文で書く！ ②　調べた内容は要約し、箇条書きで書く！ ③　出典を明記する！ ④　情報一つに１枚の情報カードを使う！	●練習用の資料を使って、情報カードの書き方を前で教示しながら、生徒にも同時に実際に書かせる。
	3	◎図書館で、情報カードを使って、紹介する文化について、必要な情報を集める。（本時）	●情報カードへは、要約して書くよう、助言する。
	4	◎「文章形式と構成を考え、内容を膨らませて下書きする」を読み、文章の形式を決める。 〇文章の構成を考え、下書きする。	●情報カードの情報をもとに、文章の構成をまず考えさせ、その構成に合わせて、内容を選択･整理させていく。
	5	◎グループで下書きを読み合い、下書きを推敲する。 〇ミニ雑誌の役割分担を決める。	●グループで話し合いながら、よりよい文章に仕上げさせる。
	6	◎グループで一冊のミニ雑誌にまとめる。	
3	7	◎グループごとに、ミニ雑誌を発表する。	

本時案 3/7

・情報カードの使い方を知り、自分が選んだ題材について、必要な情報や関連する資料を集めることができる。

学習内容と予想される生徒の反応	教師の指導と手立て(●教科担任 ◆司書教諭 ◇学校司書)
1, 本時の学習のめあてを確認する。	
2, 司書教諭から前時に学習した情報カードの使い方説明を聞き、確認する。	◆プレゼンテーションソフトを使い、分かりやすく提示する。
3, 自分の題材について、必要な情報カードに書いていく。	◆一枚の情報カードにいくつもの情報を記入している生徒や、要約ができない生徒には声をかけ、支援する。 ◇手がとまっている生徒へ、適宜本を紹介する。
4, 本時の学習の振り返りと次時の予告を聞く。	●活動の良かったところを伝え、次時は情報カードを整理し、文章の構成を考え、下書きすることを伝える。

参考資料

①音楽 ・和太鼓が分かる本(浅野太鼓文化研究所) ・カラー図解 和楽器の世界(西川浩平,河出書房新社) ・シリーズ日本の伝統工業⑪和楽器(ビブリオ出版) ・ビジュアル版和楽器事典(森重行敏,汐文社) ・国際理解に役立つ世界の民族音楽①東アジアと日本の音楽(こどもくらぶ,ポプラ社) ・日本の伝統芸能①雅楽、⑧日本の音と楽器(高橋秀雄他,小峰書店) ・ポプラディア情報館 伝統芸能(三隅治雄,ポプラ社) ・日本の伝統文化はおもしろい④東儀秀樹の雅楽(小野幸恵,岩崎書店) ・雅楽への招待(東儀俊美,小学館) ・和楽器にチャレンジ①和太鼓、②三味線、③箏、④尺八(坪能由紀子,汐文社) ・ガイドブック 浜田の石見神楽(浜田商工会議所) ・別冊太陽 日本のこころ 115 御神楽(原章、三上敏視,平凡社)

②建造物 ・ポプラディア情報館 衣食住の歴史(西本豊弘,ポプラ社) ・イラストで見るモノの移り変わり日本の生活道具百科②住まう道具(岩井宏実,河出書房新社) ・図説日本建築の歴史 寺院・神社と住宅(玉井哲雄,河出書房新社) ・さがしてみよう日本のかたち①寺⑤民家(立松和平)②城(中村良夫他)④塔(立松和平,河出書房新社) ・修学旅行で行ってみたい日本の世界遺産②京都(倉部きよたか)③奈良(原靖一,岩崎書店) ・住まい方を考える①(益子義弘,あかね書房) ・世界にはばたく日本力 日本の住(こどもくらぶ,ほるぷ出版) ・調べて学ぶ 日本の衣食住 日本人はどう住んできたか(桑畑美沙子,大日本図書) ・風土にあった生活 和風建築の研究(PHP 研究所)

③美術　・ポプラディア情報館　伝統工芸(伝統的工芸品産業振興協会,ポプラ社)　・教科書に出てくる歴史ビジュアル実物大図鑑(こどもくらぶ,ポプラ社)　・教科書に出てくる日本の画家①③(糸井邦夫,汐文社)　・すぐわかる日本の甲冑・武具(笹間良彦,東京美術)　・NHK 美の壺　根付(NHK 美の壺制作班,NHK 出版)　・橋本麻里の美術でたどる日本の歴史全 3 巻(橋本麻里,汐文社)　・学習に役立つわたしたちの日本美術⑥江戸時代の美術(小林琢,学研)　・徹底大研究日本の歴史人物⑬歌川広重(榎本紀子,ポプラ社)　・各地を訪ねて描いた戦国時代の道具図鑑(本山賢司, PHP 研究所)　・ビジュアルガイド甲冑のすべて(笹間良彦,PHP 研究所)　・日本の歴史の道具事典(児玉祥一,岩崎書店)　・はじまりのもの体験シリーズ⑤縄文土器を焼こう(宮内正勝,リブリオ出版)　・決定版図説日本刀大全、決定版図説日本刀大全Ⅱ(歴史群像シリーズ編集部,学研マーケティング)　・東京スカイツリー物語(松瀬学,ベストセラーズ)　・図解絵本東京スカイツリー(モリナガ・ヨウ,ポプラ社)　・やきもの見方・見分け方百科(竹内順一,主婦と生活社)　・すぐわかる日本の伝統文様(並木誠士,東京美術)　・姓氏・家紋の事典(真藤建志郎,ジェイ・インターナショナル)　④和食　・ポプラディア情報館　世界の料理(サカイ優佳子他)　郷土料理(龍崎英子,ポプラ社)　・和食のすべてがわかる本①～④(服部幸應・服部津貴子,ミネルヴァ書房)　・見て、知って、作ってみよう和菓子の絵事典　五感で味わう「和の文化」(俵屋吉富, PHP 研究所)　・国際理解に役立つ世界の衣食住1　①東アジアの食べもの(星川妙子,小峰書店)　・日本のくらしの知恵事典(神野善治,岩崎書店)　・世界にはばたく日本力　日本の食(こどもくらぶ,ほるぷ出版)　・調べて学ぶ　日本の衣食住　日本人は何を食べてきたか(桑畑美沙子,大日本図書)　・つくったみたいなはじめてのりょうり3・7(学研)　・つくってあそぼう23　うどんの絵本(おだもんた,農山漁村文化協会)　・もっと知りたい図鑑　日本はじめて図鑑(田中裕二,ポプラ社)　・道具なしで始められるかわいい和菓子(ユイミコ,講談社)　・ほーむめいど和菓子(金塚晴子,文化出版局)　・キッチンでつくる茶席の和菓子(金塚晴子,淡交社)

⑤芸能　・ポプラディア情報館　伝統芸能(三隅治雄,ポプラ社)　・日本の伝統芸能②能と狂言(児玉信)③歌舞伎と舞踊(石橋健一郎)④人形芝居と文楽(後藤静夫,小峰書店)　・日本の伝統芸能はおもしろい①②⑤(小野幸恵,岩崎書店)　・こども伝統芸能シリーズ③落語(柳家花緑,アリス館)　・狂言の大研究(茂山千五郎, PHP 研究所⑥衣服　・ポプラディア情報館　衣食住の歴史(西本豊弘,ポプラ社)　・着物のえほん(高野紀子,あすなろ書房)　・イラストで見るモノのうつりかわり日本の生活道具百科③装う道具(中林啓治,河出書房新社)　・世界にはばたく日本力　日本の衣(こどもくらぶ,ほるぷ出版)　・国際理解に役立つ世界の衣食住⑨アジアの民族衣装(久保田陽子,小峰書店)　・世界にはばたく日本力　日本の衣(こどもくらぶ,ほるぷ出版)　・調べて学ぶ　日本の衣食住　日本人は何を着てきたか(福原美江,大日本図書)　・ビジュアルワイド平安大事典　図解でわかる「源氏物語」の世界(倉田実,朝日新聞出版)　・教科書がよくわかる図解むかしのくらし①着る物とはきもの(学研)　・ゆかたの夏がやって来た！(中谷紅香,集英社)

⑦スポーツ　・はじめての大相撲(小野幸恵、舞の海秀平,岩崎書店)　・シリーズ日本の武道③少年弓道(窪田史郎,アリス館)　・Q&A 日本の武道事典②(ベースボール・マガジン社)　・基本をきわめる！空手道①～④(こどもくらぶ,チャンプ)　・国際理解に役立つ！世界のスポーツ④アジア(友添秀則,学研プラス)　・スポーツなんでも事典　テニス(こどもくらぶ,ほるぷ出版)　・Q&A 調べる野球①(ベースボール・マガジン社)　・日本の武道(日本武道館,ベースボール・マガジン社)　・はじめよう！少林寺拳法(ベースボール・マガジン社)　・新版　絵でわかるジュニアスポーツ⑤剣道・柔道(関岡康雄,学研)

小学校 4年

社会

「ガイドブックを作って、島根のよさを伝えよう！」
（「わたしたちの島根県」東京書籍）

単元のねらい

・地域の資源を活用している市の取組や人々の生活の様子を、資料を活用して調べ、まとめることを通して、自分たちの住んでいる島根県の特色のよさを考えることができるようにする。

つけたい情報活用能力

・情報を取り出す力、整理する力、まとめる力

単元の指導計画（全12時間）

次	時	主な学習活動	教師の支援（●担任　◆司書教諭　◇学校司書）
1	1	◎パンフレットや写真をもとに、島根県の主な市の人々の暮らしについて話し合い、学習問題を作る。	●山口県と島根県を比較することで、島根県のよさを知ってもらうことについて関心をもたせる。
2	2 3	◎益田市の石見神楽について資料を読みながら情報カードを書く。 〇パンフレットや表から、石見神楽を保護・活用する取組を読み取り、情報カードに書く。	●第3次の調べ学習に生かせるよう、様々な種類の資料を読みとらせる。 ●児童の気づきを取り上げ、黒板へ掲示する。
	4	◎情報カードを分類して益田市のガイドブックを作る。 〇全員がそれぞれガイドブックを作成する。	●図や写真を貼らせることで、ガイドブックをより分かりやすくするための工夫を理解させる。
3	5 6	◎グループごとに様々な資料を用いて調べ、情報カードを記入する。 〇各市町村のパンフレットや図書を読んで、分かることやガイドブックに載せたいことを情報カードに書く。	●次の活動で分類・整理をしやすくするために、観点を意識しながら情報カードを書かせる。 ◆◇書きにくい児童に言葉かけを行い、情報カードに書けるところが分かるように助言する。
	7	◎調べる内容や方法、まとめ方について、グループごとに話し合い計画を立てる。（本時） ［まとめる内容］ ・資源についての概要・資源を守る取組 ・資源を生かす取組・関わる人の願いや努力 ［調べる方法］ ・パンフレット・本・地図帳・インターネット ・自分の調べる内容にあった地図や資料を選び調べる ・手紙や電話を活用して、質問をしたり資料を集めたりして調べる	◆◇不十分な情報について、様々な調べ方を提示し、児童が自分たちで計画を立てられるようにする。

次	時	主な学習活動	教師の支援（●担任　◆司書教諭　◇学校司書）
3	8 9 10	◎必要な情報を調べ、情報カードに記入する。 〇自分たちで立てた計画に沿って活動に取り組む。 ◎ガイドブックを作成し、まとめる。 〇図や写真などを使って、分かりやすく興味がもてるガイドブックになるよう、工夫しながらガイドブックを作成する。	●児童が自分たちの計画に沿って資料を集められるよう、必要に即した資料や学習方法を用意する。 ●見やすさや分かりやすさ、興味を引く書き方を意識させながらガイドブックを作成させるために、「県外の人のために」という学習課題を想起させる。
4	11 12	◎グループごとにガイドブックを発表し合う。 〇自分たちの調べた地域の資源を保護・活用した取組について、ガイドブックを用いながら発表し、感想を伝え合う。 ◎ガイドブックを生かす方法を考える。 〇ガイドブックを見てもらうために、どこに置けばいいか考える。	●地域の資源を保護・活用した取組についての内容やガイドブックづくりで工夫したところを伝え合うことで、その他の地域でも同様に資源を保護・活用するための取組が行われていることを理解させる。 ●ガイドブックを生かす方法を考えさせるために、学習課題を想起させ、県外の人が集まる場所やガイドブックが必要とされる場所を提示する。

本時案 7/12

・資料から読み取った地域の特色ある活動等の情報を４つの観点で整理することができる。

学習内容と予想される児童の反応	教師の支援（●担任　◆司書教諭　◇学校司書）
1，前時の学習を振り返る。 ・前時までに情報カードを使って情報を集めたことを振り返り本時では情報を分類・整理することを知る。	●益田市のガイドブックを想起させることで、情報カードを観点ごとに分類する必要があることをとらえさせる。
2，情報カードを観点ごとに分類する。 ・グループで、集めた情報を伝え合い、情報カードを4つの観点で分類する。 ① たからものについての説明　② たからものを守るための活動 ③ たからものを生かすための活動　④ 関わる人たちの願いや思い 情報カードをもとに、ガイドブックづくりの計画をたてよう。	●分類が難しい内容については、何のためにその取組が行われているのかを考えさせ、判断の材料とさせる。
・分類したカードを基に、ガイドブックのレイアウトを考える。 ・情報が不十分な観点について、どんな情報をどのように集めるか担任や司書教諭と相談して決める。	●益田市のガイドブックを想起させ、考えやすくする。 ◆◇情報が不十分な観点について、次時以降に集められる資料を例示し、児童が困らないようにする。
3，　振り返る。 ・本時の学習で整理できたことと、次時の学習で調べることについて確認する。	●次時の学習への見通しを持たせるために、本時の活動を振り返り、次に取り組むことを確認する。

小学校 5年

社会

「わたしたちが新鮮な魚や加工品を食べられるのはなぜだろう？」
（「水産業のさかんな地域」東京書籍）

単元のねらい

・水産業が盛んな地域を事例として、我が国の様子について、地図や統計などの各種資料を活用して読み取ることができる。

つけたい情報活用能力

・年鑑、統計の利用　・地図の利用
・情報カード（プラスカード）の利用

単元の指導計画（全8時間）

次	時	主な学習活動	教師の支援（●担任　◆司書教諭　◇学校司書）
1	1	◎寿司ネタからわたしたちの食生活に魚介類は関わりが深いことに気付き、年鑑を使って調べるなどして、水産業について関心を高める。	●寿司を題材にし、ネタの魚がどの地域でとれるのか、グラフや地図、年鑑等で調べ興味を引き出す。 ◆年鑑の使い方の指導
	2	◎水産業に関する本を読み、水産業とは何か、漁法にはどんなものがあるかなど、新しい情報を得る。	◇子どもたちに読みやすい、水産業に関する本を準備し、ブックトークで紹介する。
2	3	◎まき網漁を基に沖合漁業について調べ、沖合漁業とはどんな漁業なのか、まとめる。 ・沖合漁業の漁法　・働く人々の工夫、努力	●水産業の中でも特に生産量の多い沖合漁業を取り上げる。 ◆プラスカードの書き方指導
	4	◎長崎漁港で水揚げされた魚が出荷されるまでの流れを通して、魚を新鮮に保つための様々な工夫について調べる。 ・人々の工夫　・施設の工夫　・輸送の工夫	●本をいつでも読めるように、教室内に置いておき、授業以外の時間でも読めるような環境を整えておく。 ●プラスカードも、ブックカートに置いておき、すぐに記入できるようにしておく。
	5	◎まき網漁業とカツオの一本釣り漁法の工夫の比較から、遠洋漁業の特徴について知り、遠洋漁業について考える。	●理由として、大都市への利便性や水産加工団地の充実などが関係していることをおさえる。
	6	◎焼津漁港を調べることを通して、カツオの水揚げが多い理由について考える。	●図書館の資料や資料集を活用し、必要な情報を収集させる。
	7	◎島根県で行われている養殖や栽培漁業を基に，つくり育てる漁業が国民の食卓や水産業全体を支えるためにしている様々な工夫を調べる。	二次を通して水産業に携わる人々の工夫や努力をプラスカードに記入していく。
	8	◎水産業に携わる人たちの工夫や努力について調べたことを伝え合い、工夫や努力についてグループでまとめて発表する。（本時）	

本時案 8/8

・水産業が盛んな地域の人々の工夫や努力についてより深く知ったことを伝え合い、わたしたちの食生活を支えていることを理解することができる。

学習内容と予想される児童の意識や活動	教師の支援
1，小単元の学習テーマを確認する。（全体） 〇学習課題を知る。 「わたしたちの家に新鮮な魚や加工品が届くまで」の工夫や努力マップを作ろう！	●ノートを見返したり，後ろの掲示物を確認したりするように声をかける。
2，今までためたプラスカードを使って、マップ作りをする。 〇プラスカードを選ぶ。（個人） ・今までためていたプラスカードの中から友達にぜひ伝えたいものを選び、工夫や努力が伝わるように、プラスカードに工夫をする。（〇や下線など）	●カードを選んだ理由をグループで発表させる。 ●困っている児童には、声をかけたり一緒に作業したりする。
3，工夫や努力マップ作りをしよう。（グループ） 〇班の中で、ぜひ他の班の人に伝えたいカードを選ぶ。 〇そのカードを選んだ理由や考えたことを、グループで話し合いながら、吹きだしなどで記入する。 ＊輸送トラックは、わたしたちがおいしく食べるために－40 度まで冷やしているなんてすごい！ ＊漁師さんたちが行っている漁法は、それぞれの魚の特性を生かして捕まえる方法ばかりだな。 ＊漁港に着くまで新鮮に魚を運ぶために船には大きな水槽があるんだ。	●おすすめのカードの内容を紹介しにくい児童がいれば、声をかけ一緒に話し合いに参加する。 ●なぜそのカードを選んだのか、言いにくい児童には、どこがすごいと思ったかなどを質問し、理由を話しやすくする。
4，お互いの意見を聞きあう。（グループ） 〇班の発表者を1名、違う班の発表を聞きに行く3名を決める。 〇説明を聞く人は、自分の班と同じ、違う工夫や努力を探しながら聞く。 〇発表が終わった後は、それぞれが聞いたことを自分の班の人に説明する。	●発表者にマップを指しながら説明すると伝わりやすいこと、発表を聞く人には後で班の人に聞いたことを伝えることを確認しておく。 ●聞きに行く人の視点と、発表する人の視点を分けて、これから何をするか伝える。 ●発表しているときは、グループを回り、困っている様子が見られたプラスカードや吹きだしを読み直すよう声をかける。
5，振り返りをする。（個人） ① 水産業に携わる人たちがしている工夫や努力は何のためか考える。 ② 水産業について考えたこと、思ったこと、もっと調べてみたいことをワークシートに記入する。 ＊わたしたちにおいしい魚を届けるために、トラックに工夫していたり高速道路を走ったりしているんだなと思いました。 ＊わたしたちが食べている魚は、たくさんの人たちの工夫や努力によって食べることができているんだなということが分かりました。	●文章で書けない児童には、まず話をしてから書くようにする。

小学校 6年

社会

「キャッチフレーズで江戸の文化を伝えよう」（「町人の文化と新しい学問」東京書籍）

単元のねらい

・歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産ついて調べ、社会が安定するにつれて町人の文化が栄え、新しい学問が起こったこと、それらにかかわる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味を考え、言語などで適切に表現できる。

つけたい情報活用能力

・情報の収集、選択　　・情報カードの利用

単元の指導計画（全7時間）

次	時	主な学習活動	教師の支援（●担任 ◆司書教諭 ◇学校司書）
1	1	◎学習の見通しを立て、調べ学習の仕方について確認する。 ◎江戸の町の様子の絵図を見て、江戸の文化について関心をもつ。	●学習の見通しを持たせるためのプレゼンを行う。 ◇江戸の文化に関する資料を収集する。
2	2	◎歌舞伎について調べ、その広がりについて考える。	●図書館資料を使って、江戸の文化がどのように広がっていったのか、調べさせる。 ◆情報カードへの記入の仕方を説明する。 ◇目的の本が探せるよう支援する。
	3	◎浮世絵について調べ、その広がりについて考える。	
	4	◎新しい学問が起こった様子を調べる。 ○国学や蘭学は、どのような学問なのか。	
	5	◎国学や蘭学の特色について調べ、それらが社会へ与えた影響について考える。	
	6	◎資料をもとに、社会の変化や幕府の行き詰まりについて考える。 ○新しい時代に向けて、どのような動きが現れてきたのか、考える。	
3	7	◎江戸の文化について、キャッチフレーズをつくる。（本時） ○キャッチフレーズで、江戸の文化を伝える。	●納得したキャッチフレーズが作れるようにグループで文化に対する自分の意見を伝え合わせ、考えを深めさせる。

並行読書

本時案 1/7

・江戸の文化を伝えるために、江戸の文化や学問が社会に与えた影響について考え、キャッチフレーズに表現することができる。

学習内容と予想される児童の反応	教師の指導と手立て
1. 学習のめあて、流れを確認する。 キャッチフレーズで江戸の文化を伝えよう	●意欲的に学習に取り組むことができるように、学習のめあてを確認する。 ●学習の見通しをもつことができるように、本時の学習の流れを確認する。
2. 江戸時代を代表する文化は何か、一つ選ぶ。 ○今まで学んできたことを生かして個人で考える。 ＊安く手に入り、民衆の生活に広がっていった浮世絵 ＊今のアイドルのライブのように、民衆が楽しみにしていた歌舞伎 ＊現在の医学の原点になった蘭学 ＊江戸の社会や政治に大きな影響を与えた国学	●児童が考えを持てるように、情報カードやノートを活用させる。 ●個人の考えを付箋に、簡単に記入させる。 ●自分の考えをもてない児童には、今までの情報カードやノートをヒントにして、自分の気に入る文化を選ばせる。
3. グループで江戸の文化に対する意見を発表し、考えを深め合う。 ○グループで自分の考えを伝え合う。 ○同じ文化を選んだもの同士で集まり、話し合う。 ＊民衆が生活を楽しむことができるようになったから、浮世絵。 ＊そういう意味なら、歌舞伎だってそうだよ。 ＊今現在、私たちが健康でいられるのは、蘭学のおかげだよ。 ＊社会や政治に大きな影響を与えたから、今の時代があると思うから、国学。	●グループの子ども同士が互いの考えを共有できるように、付箋、情報カード、ノートなどを提示しながら説明させる。 ●グループ討論で、出し合った児童の考え(言葉)がキャッチフレーズ作りに生かせるよう、情報カードやノートの重要な言葉に、赤印をつけさせる。
4. 討論したことを生かして、グループごとに江戸文化をキャッチフレーズで表し、短冊に書く。 5. 本時を振り返る。	●児童の考えが全体で共有できるようにする。 ●本時の学習を振り返り、次の単元への意欲を高められるようにする。

中学校 1年

社会

「世界のさまざまな地域の調査」
（「世界のさまざまな地域」東京書籍）

単元のねらい

・主題を多面的・多角的に調査、考察、探究することができる。
・調査した地域の特色を理解するとともに、調査を行う際の視点や方法を身に付けることができる。

つけたい情報活用能力

A 課題を見つける力　B 情報を収集する力　C 情報をまとめる力

単元の指導計画（全６時間）

主な学習活動	関心･意欲･態度	思考･判断･表現	技　能	知識･理解
①調べたい主題を設定し、それに対する仮説を立てる。(情)A（本時）	興味･関心のある地理的事象などから、意欲的に主題を設定しようとしている。	地域的特色をとらえる適切な主題を設定し、仮説を立てている。		
②③④調査計画を立て、調べていく。（情)B	各自の主題追究のために、意欲的に調査活動を行うことができる。		地図や文献、インターネット情報等の資料を適切に活用している。	
⑤⑥調査結果を分析し、レポートにまとめる。(情)C		調査結果を多面的･多角的に考察し、追究した結果を適切に表現している。	有用な情報を適切に選択し、関連づけながら整理している。	調査を行う際の視点や方法、まとめ方を理解している。

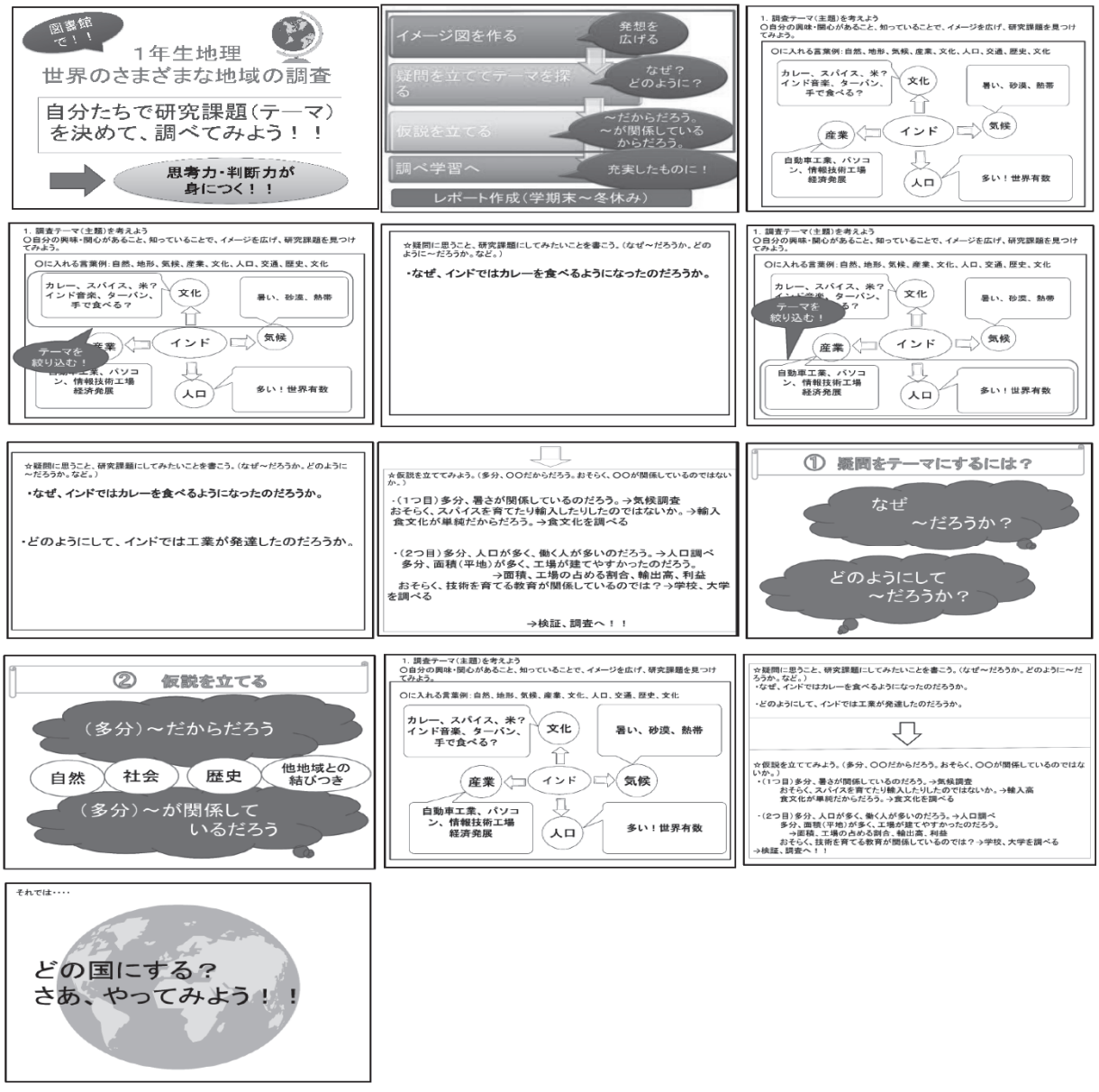
本時案 1/6

・興味・関心のある地理的事象などから、意欲的に主題を設定しようとしている。
・地域的特色をとらえる適切な主題を設定し、それに対する仮説を立てている。

学習内容と予想される生徒の反応	教師の支援（●担任◆司書教諭◇学校司書）
1，本時のねらいを確認する。 2，自分の興味や関心のあることを中心にウェビング･マップをつくろう ･既習の学習内容、資料、日常生活の中から自由な発想で書く。 ･自然とのかかわり、社会とのかかわり、歴史的な背景、他地域との比較や結びつきの視点から書く。 ･まず個人で考え、その後グループ内で相談し、考えを広げる。 ･できあがったウェビング･マップから主題をしぼりこみ、疑問に思ったことをワークシートに書く。	●本時のねらいを視覚的に表示する。 ◆ウェビング･マップのつくり方を説明する。 ◇課題設定がしやすいように図書館資料の紹介をいくつか行う。 ●既習事項を用いながらアドバイスをしていく。 ◆◇ウェビングの例を示しながら情報提供、資料提供を行い作成の支援を行う。

学習内容と予想される生徒の反応	教師の支援（●担任◆司書教諭◇学校司書）
3, 疑問に思ったことをもとにして、仮説を立てよう ・ウェビング・マップに書き込んだ疑問に対する答えの予想をワークシートに書く。 ・自然とのかかわり、社会とのかかわり、歴史的な背景、他地域との比較や結びつきの視点から書く。	●地域的特色をとらえる主題であるかどうかなどを確認し、アドバイスする。 ●主題は具体的か、資料が集まる見込みがあるのかを考えさせる。 ●◆◇机間指導を行い、支援を要する生徒への助言を行う。
4, 次時の活動を確認する。	●次時は仮説を検証するための調査の計画を立て、調べていくことを説明し、先の見通しをもたせる。

参考資料　「課題設定のための指導資料」



中学校 2年

社会

「近代国家の歩みと国際社会」
（「高まるデモクラシーの意識」帝国書院）

単元のねらい

・第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動と国際協調の動き、日本における民衆の政治意識の高まりと文化の大衆化などについて、さまざまな資料から分析・表現し、時代像を考察する力を育てる。

つけたい情報活用能力

・情報を取捨選択する力　・情報をまとめ、発表する力

単元の指導計画（全9時間）

次	時	学習のねらい	主な学習活動
1	1	・学習課題に応じた情報を収集し、適切に取捨選択することができる。	◎意識調査の結果から、学習課題を設定する。 ◎図書館の資料から学習課題に応じた情報を収集する。
	2	・学習課題を分析し、選択した情報を相手に伝える方法や手段を考えることができる。	◎グループで資料の分析・考察を行い、資料を精選する。 ◎学習課題を相手に伝える方法や手段を考える。
	3	・第一次世界大戦をさまざまな視点から分析・考察し、第一次世界大戦がどのような戦争であったのか、自分の言葉で表現できる。（本時）	◎グループごとに学習課題を発表し、互いに評価しあう。 ◎意見交換を行い、第一次世界大戦を自分の言葉でまとめる。
2	4	・国際協調と民族運動に関する資料について適切に分析・表現することができる。	◎学習課題を設定する。 ◎国際協調と民族運動に関する資料からテーマを決めてレポートを作成する。
	5	・大正デモクラシーに関する情報を集めて適切に表現できる。	◎学習課題を設定する。 ◎大正デモクラシーに関するレポートを作成する。
	6	・社会運動と大衆文化について、現代の生活と比較して説明できる。	◎学習課題を設定する。 ◎現代の生活と比較して当時の生活の様子を考察する。
	7	・部落差別の実態を理解するとともに、差別解消に向けての意欲と態度を育てる。	◎学習課題を設定する。 ◎全国水平社創設を通して解放運動の高まりや人権問題について話し合う。
3	8	・これまでの学習をふり返り、具体的な事例や根拠を示しながら時代像をつかむことができる。	◎学習課題を設定する。 ◎大正時代に関わるキーワードを挙げ、自分の言葉で大正時代を振り返る。
	9	・明治から大正にかけての出来事に対する知識を深め、歴史の流れをつかむことができる。	◎学習課題を設定する。 ◎ワークシートに語句などを書き込み、年表を完成させる。

本時案 3/9

・第一次世界大戦をさまざまな視点から分析･考察し、第一次世界大戦とはどのような戦争であったのか、自分の言葉で表現できる。

学習内容と予想される生徒の反応	教師の支援（●担任◆司書教諭◇学校司書）
1，本時の学習の流れとねらいを確認する。	●各グループの学習課題を明らかにし、第一次世界大戦を自分の言葉で考える視点をもたせる。
2，学習課題ごとに発表する。 学習課題 ①国際情勢と戦争の始まり ②日本の参戦と好景気 ③戦争の経過と結果 ④総力戦と新兵器 ⑤自由テーマ 	●発表ごとに声の大きさや立ち位置、資料の提示方法などを適切に指示し、発表の内容が全員に伝わるようにする。 ◆メモの取り方、資料の扱い方（見方、読み取り方）、発表の仕方を指示する。 ◆◇実物投影機を利用するグループでは、機器の操作について補助を行う。 ●発表評価表を準備し、各班のよい点を積極的に評価させる。
3，学習課題を深める。 ※グループを再編する。	●◆話し合いがうまく進まないグループがあれば、適切に補助発問や補足説明を加え、生徒の思考を深める。
4，第一次世界大戦を考察し、自分の言葉で表現する。	●◆活動が難しい生徒については、自分が調べた内容で考察するように指示する。 ◇関連資料を紹介する。
5，第一次の学習をふり返る。	●活動全体でよかった点を積極的に評価し、これからの学習への意欲を高める。 ◆情報の収集や取捨選択、表現方法についての評価をする。

小学校 4年

理科 「水のすがたとゆくえ」

（「水のすがたと温度」「自然の中の水のすがた」東京書籍）

単元のねらい

・水を熱したり冷やしたり、身の回りの水の様子を調べたりすることに興味をもち、水の状態変化について進んで調べ、学習したことをまとめることができる。

つけたい情報活用能力

・学習テーマの選択　・表や図、グラフの利用

単元の指導計画（全 13 時間）

次	時	主な学習活動	★学校図書館の活用　☆情報活用能力
1	1	◎学習の見通しをもつ。（本時） 〇水について知っていることを出し合う。 〇水についてのブックトークを聞く。 〇校庭の雪の解け方の違いについて考え、課題作りをする。	★図書の紹介（学校司書） ●紹介してもらった図書を教室に置き、自由に読めるようにしておく。 ☆Ⅰ課題設定・学習計画 ウ 学習テーマの選択
2	2 3	◎水を冷やしたとき 〇水を冷やしたときの様子や温度と体積の変化を調べ、表やグラフに整理し、冷やしたときの水の様子や温度変化についてまとめる。	☆Ⅱ情報の収集 実験・観察、記録用紙の記入 Ⅲ情報の整理・まとめ ク 表や図、グラフ
3	4 5 6 7 8	◎水を熱したとき 〇水を熱したときの様子や温度の変化を調べ、表やグラフに整理し、熱したときの水の様子や温度変化についてまとめる。 ◎湯気とあわの正体 〇水を熱して、湯気の正体について調べ、まとめる。 〇水を熱し、水の中から出てくる泡の正体について調べ、まとめる。 〇水を熱したときの変化をまとめる。	
4	9 10 11	◎水のゆくえ 〇水は沸騰しなくても、自然に蒸発していくことを調べる。 ◎空気中の水蒸気 〇空気中の水蒸気は、冷やされて水にもどることを調べる。 〇温度による水のすがたの変化についてまとめる。	
5	12 13	◎まとめ 〇自然の中でめぐっている水についまとめる。 〇学習したことをB4用紙1枚にまとめる。	☆Ⅳ発表 ア 掲示・展示による発表

本時案 1/13

・ブックトークを聞いて、水の様子や変化について関心をもち、校庭での現象について考えることで、氷から水への変化について興味をもち、これからの学習に意欲的に取り組もうとする。

主な学習活動	教師の支援（●担任　◆司書教諭　◇学校司書）
1，本時のめあてを確認する。 水についての興味関心を広げよう ・水について知っていることを発表する。	
2，ブックトークを聞く。	◇水に関する本のブックトークを行う。 ●図書は教室に置いて自由に読んでよいことを知らせる。
3，校庭の雪解けの様子についての話を聞く。	●よく分かるように、校庭の雪解けを写した写真を見せる。
4，雪解けに違いが見られたわけを考える。 （1）自分の考えをワークシートに書く。 （2）発表する。 （3）話し合う。	●自分の考えをワークシートに書かせてから発表させ、その後話し合わせる。
5，雪のある部分とない部分の温度測定の結果から雪のある部分は温度が高かったことを知り、さらに雪が解ける温度について予測する。 （1）温度測定の結果を知る。 （2）雪が解ける温度を予測する。	●あらかじめ測っておいた温度（写真提示）を知らせる。
6，雪が解ける温度を調べるには、どんな実験をすればよいか考える。	●時間があれば、グループで相談し発表する。
7，本時の振り返りをする。	

小学校 6年

理科

「月と太陽の表面」

（「月と太陽」啓林館）

本時のねらい

・月や太陽の表面の様子について調べたことを比べながら整理し、それぞれの特徴や違いを理解することができる。

つけたい情報活用能力

・必要な情報の収集、選択、整理　・情報カードの利用

主な学習活動と児童の反応	教師の支援（●担任　◆司書教諭　◇学校司書）
1，前時までの活動を振り返り、本時の見通しをもつ。 月と太陽の表面について調べたことを比べよう。	●月の表面について、指導者が予想したものを項目ごとにまとめて提示し、児童がまとめる際の項目立てに生かせるようにする。
2，月と太陽の表面に関することなどについて調べた事柄を表にまとめる。（グループ活動） ＊クレーターって大きな穴なんだ。 ＊太陽は表面が燃えているよ。 ＊月には海があるんだね。 ＊太陽には黒いところがあって、黒点っていうんだ。 ＊月のうさぎが見えたのは、海だったんだ。	●比べながら整理しやすいよう、共通点と比べる点がかき分けやすい表を用意する。 ◆表の使い方の説明をする。 ◇これまでに使った資料も教室内に残し、児童が随時使えるようにしておく。 ●◆◇必要に応じて個別の支援にあたる。 ・項目立てに困っている児童には、予想の表を基に助言。 ・説明に戸惑う児童には、伝えるといいところを示唆したり、イラストを使って伝えるとよいことなどを助言したりする。
3，グループでまとめたものを発表し、見つけた特徴や違いについて、交流する。（全体活動） ＊月にはクレーターがあり、直径が200kmを超えるものもあります。 ＊太陽には黒点があり、周りの温度6000度より低い4000度くらいです。 ＊月には海があり、黒っぽく見える。 ＊太陽は強い光を出している。	●児童の発表に基づいて、月と太陽の特徴と違いについて整理し、まとめる。まとめる際は、拡大した表を配って、それに書き込ませ、視覚的にとらえやすくする。 ●児童の発表した表現を大切にしながら、かつ「クレーター、海、表面の温度、黒点、強い光を出していること」などの、大切な言葉を目立つように表に示していく。
4，ワークシートに今回の学習のまとめと振り返りを書く。 ＊月の表面はクレーターがあり、岩石や砂が一面に広がっている。太陽は強い光を出していて、表面には黒点がある。月と太陽の表面はそれぞれ違った様子をしている。	●まとめは、「月と太陽の表面は、‥」の書き出しで書かせ、表や板書を参考に、表面の違いについて書くよう、声がけする。 ●振り返りでは、「予想と比べてどうだったか、初めて知ったこと、友達との活動を通して感じたこと」の視点から書かせる。

中学校 2年 **理科**

「動物のからだのつくりとはたらき」
（「動物の生活と生物の変遷」東京書籍）

単元のねらい

・動物の消化、呼吸及び血液循環や外界の刺激に対する反応について観察や実験を基に、動物のからだのつくりとはたらきを関連付けて理解できる。

つけたい情報活用能力

・課題設定　・情報の収集、整理、分析　・情報カードの利用

単元の指導計画（全 19 時間）

次	目標	時	主な学習活動
1	・食物はどのようにして体内に取り入れられるか、理解できる。	1 2 3 4	○だ液の性質について、実験を通して考える。 ○だ液以外の消化液による消化について学習する。 ○なぜ小腸には柔毛というつくりがあるのかをモデルを参考にして考える。 ○小腸ではどのようなしくみで養分を吸収しているのか学習する。
2	・からだの中で呼吸がどのように行われているか、理解できる。	5 6 7	○気管支や肺胞など、肺のつくりについて学習する。 ○肺による呼吸の仕組みについて、肺の呼吸モデルを用いながら確認する。 ○肺で取り入れた酸素と養分は心臓によって全身の細胞に運ばれていき、生きていくためのエネルギーを取り出していることを学習する。
3	・血液を送り出す心臓と、その血液のはたらきについて理解できる。	8 9	○左心室や右心房といった心臓の構造について、トリの心臓を観察しながら確認する。 ○血液の成分について学習する。
4	・不要な物質はどのようにして取り除かれるのか、理解できる。	10 11	○腎臓の役割について映像を見ながら学習する。 ○体内で物質がどのように移動・交換されているかまとめる。
5	・刺激を受け取る器官と反応する仕組みを理解できる。	12 13 14 15	○目や耳など、それぞれの感覚器官について学習する。 ○刺激が伝達していく仕組みについて学習する。 ○意識的に起こる反応と無意識に起こる反応について考える。 ○からだが動く仕組みをモデルの筋肉と腱に着目しながら確認する。
6	・からだの不思議について調べる。	16 17 18 19	○ヒトのからだについて、調べたいテーマを決め、仮説を立てる。（本時） ○情報カードを使って、必要な情報を集める。 ○個人で調べた内容をまとめる。 ○まとめた内容をポスターセッション形式で発表する。

本時案 16/19

・ヒトのからだについて多様な疑問や気付きから調べるテーマを設定し、科学的な概念や言葉を使って仮説を立てることができる。

主な学習活動と予想される生徒の反応	教師の支援（●担任 ◆司書教諭 ◇学校司書）
1，これからどのような活動をしていくのか見通しをもつ。 **まだ知らないからだの不思議はどれくらいあるのだろうか。～見つけて･調べて･発表しよう～**	●まず今回の学習の大きなテーマを示し、テーマ決め、調べ学習、発表があることを伝え、学習の見通しをもたせる。
2，本時の学習のめあてを確認する。 ･疑問の出し合い･分類→テーマ決め→仮説 **自分が調べるテーマを決めて仮説を立てよう！**	●この時間に何ができれば良いのかを明確に示す。
3，テーマの決め方について説明する。	●流れや本時行う活動の簡単な説明をプレゼンテーションソフトで示し、流れなどを視覚的に分かりやすいようにする。
① 宿題で書いてきた情報カードを班で出し合う。 ② 似たものを集めて分類し、付箋で小見出しをつける。 ③ 全体で示された6つの分類に当てはまるように班の情報を再分類する。 ④ 6つの分類をランダムに各班に割り振る。 ⑤ 割り振られた分類の情報カードの中から自分が調べたいテーマを決める。 ⑥ 決めたテーマに対して自分の言葉で仮説をたてる。	
4，情報カードを出し合い、班で疑問を分類する。	●前時の宿題として、個人で疑問を考えさせる。 ●◆テーマの内容や分類の方法について助言する。 ●◆情報カードの見出しの部分（不思議に思うこと）が見えるように重ねて分類させるようにする。
＜予想される生徒の疑問＞ ○消化や吸収に関わること ･なぜ食べ物は食道でつまらないの? ･なんで胃は溶けないのか? ･寝ているときもが消化させるのはなぜ? ･大便の固さや色が変わる仕組みは何? ○呼吸に関わること ･鼻呼吸と口呼吸が分かれているのはなぜ? ･深呼吸と普通の呼吸はどう違うのか? ･肺活量とは何？･肺はなぜ左右にあるの? ･呼吸に必要な横隔膜の構造は？ ○血液や心臓に関わること ･心臓はになぜ疲れない? ･なぜAEDで助かるの？･血液型って何？ ･心臓はなぜ左側によっているのか? ･鼻血はなぜ出るの?	○排出や分泌に関わること ･おしっこの色が変わるのはなぜ？ ･膀胱ではどのくらい尿がためられるの？ ･なんで目ヤニがでるの？･便秘はなぜ起こるの？ ･なぜ涙はしょっぱいの？ ○刺激や反応に関わること ･脳はなぜ変な形をしているの? ･くすぐったい部分とそうでない部分があるのはなぜ? ･乱視とは何か？･痛みを感じるメカニズムは何？ ○骨や筋肉、からだの表面に関すること ･なぜ爪は伸びていくの？･骨折はどうして治るの? ･筋肉痛はなぜ起こるの？･髪の毛の構造は？ ･白髪が生えるのはなぜ? ･膝の皿はなんのためにあるのか?	

主な学習活動と予想される生徒の反応	教師の支援（●担任　◆司書教諭　◇学校司書）
5，全体で共通したカテゴリーに班で再分類する。	●◆大きな模造紙にそれぞれのカテゴリーの枠を書いておき、班で分類した情報カードを机上で分けさせる。 ●生徒が出した不思議の数に偏りがあった場合は班や全体で考えさせる。（各カテゴリー最低6個確保させる）
6，班で調べるカテゴリーを決める。	●くじを用意しておき、ランダムに班で担当するカテゴリーを決める。
7，個人でテーマを決める。	●各班で再分類された情報カードを集めて、そのカテゴリーの担当になった班へ渡す。 ●◆自分が知りたい、みんなに伝えたいテーマにするように声かけをする。
8，疑問に対しての仮説を書く。 ＊脳の形がぐにゃぐにゃ。 ＊腕の筋肉などとは全く違う筋肉でできているから。	●自分が決めた情報カードの中に仮説を書くように指示をする。 ●仮説は正解を求めるものではないということを伝え、積極的に仮説を出させる。 ●これまで学習した単語や考え方を使って仮説が立てるように声かけを行う。
9，本時の学習の振り返りと次時の予告を知る。	●何人かの生徒を指名し、調べる疑問と仮説を発表させる。 ●次の時間にすることを伝え、次の活動がスムーズに進むようにする。 ◇本時で決まった生徒のテーマから、必要な図書の手配を行う。

小学校 1年 **生活**

「どきどき　わくわく！いきものはかせ！」（「いきものとなかよし」東京書籍）

単元のねらい

・身の回りにいる生き物に関心をもち、進んで探したり、親しみをもって大切にしたりすることができる。

つけたい情報活用能力

・図鑑の使い方　・本の場所を知る。

単元の指導計画（全 13 時間）

次	時	主な学習活動	教師の支援（●担任◆司書教諭◇学校司書）
1	1	小単元1 **いきものをみつけよう**	
		○夏休みを中心に今までに出会った生き物を紹介しよう。	●生き物の生息環境の違いに気付かせるために、校内のいろいろな場所で生き物探しができるように下見をしておく。
	2	○学校にいる生き物を見つけにいこう。	●生き物を触ることが苦手な児童は、得意な児童や教師と一緒に採集活動を行い、少しずつ慣れていけるようにする。
	3		
	4	○生き物を観察しよう。	●生き物をよく見て観察できるように観点を示し、「はかせカード」を書かせる。
	5	○生き物が住んでいるところを見つけよう。 →捕まえた生き物は一度自然に返す。	●学校の地図を用意し、生き物がいた場所を記録したりもう一度生き物探しをしたりすることで、生き物の生息環境がわかるようにする。
2	6	小単元2 **いきものをみつけて、いきものはかせになろう**	◇生き物のブックトークをする。
		○いきものはかせになるために、知りたいことを見つけたり、それがわかる方法を考えたりする。 ＊虫の名前、すみか、えさ、虫の触り方・持ち方、体の部分の名前など ＊本、友達、家族、2年生など	●ブックトークをもとに、「○○（生き物の名前）はかせポスター」のモデルを作り、見通しをもたせるとともに意欲を高める。
		○「はかせポスター」を見て、見通しをもつ。	
	7	○本から生き物のひみつを見つける。（本時）	●国語科の学習を活かし、図書資料（図鑑）を扱えるようにする。 ●付箋を活用して、自分の発見を明らかにするとともに、友だちに話せるようにする。 ●交流の時間を設け、児童の素直な驚きや発見を共有する。

次	時	主な学習活動	教師の支援（●担任◆司書教諭◇学校司書）
2	8	○本から見つけたひみつを「はかせカード」に書く。	●前時での学習を残しておく。（付箋） ●本を参考に、絵や文で表すように声をかける。
	時間外	○インタビュー活動	●文字の読み書きが困難な児童も意欲的に活動できるよう、図書資料で調べるだけでなく、インタビュー活動を取り入れる。
	9	○もう一度生き物を見つけに行き、今までの知識をもとに飼育する。	●作成中の「○○はかせポスター」は教室に掲示しておき、興味・関心を持続できるようにする。 ●生き物との関わりから見つけたことはいつでも記録できるように「はかせカード」を用意しておく。
3	10 11	**小単元3いきものはかせのはっぴょうかいをひらこう。～はかせポスターをつかって～** ○自分が大切にしてきた生き物を友だちに紹介する。	●発表の仕方のモデルを提示し、イメージをもたせる。 ●「○○はかせポスター」だけではなく、実際に生き物を触ったりすみかを見せたりしながら紹介できるように練習させる。
	12	○大切にしてきた生き物に手紙を書き、虫をもといた場所に返す。	●手紙を書く活動を通して生き物と自分との関わりを振り返ったり、自分自身の成長に気付いたりできるようにする。

本時案 7/13

・自分が飼育、観察したいと考えている生き物について、本を読んで初めて知ったことや驚いたことを友達に話すことができる。

主な学習活動	教師の支援（●担任　◇学校司書）
1，本時の学習の見通しをもつ。 いきものはかせになるために、ほんから「○○のひみつ」をみつけよう。	●自分が飼育、観察したい生き物についてのひみつを見つけるために、本を読むことを確認する。
2，調べる本がどこにあるのかを確かめたり、もくじの使い方や本の見方、付箋の使い方を振り返ったりする。 ・図鑑の使い方を復習する。	●掲示物などを使って視覚的に支援し、もくじの使い方や本の見方が理解できるようにする。 ●驚いたこと、初めて知ったことに付箋を貼ることを確かめる。 ●◇本の分類や場所を確認する。 ●◇図鑑の使い方を確認する。
3，本を読んで、付箋をつける。	●机間指導をしながら、本の見方を確認したり、一緒に読んだりする。 ◇支援が必要な児童のそばで絵や写真の多い本をすすめたり、本の見方を一緒に確認したりする。

主な学習活動	教師の支援（●担任　◇学校司書）
4，初めて知ったことや驚いたことを友だちに話す。 しょうかいするときのポイント ・えやしゃしんをみせながら。 ・ゆびでさししめしながら。 ① 一人で練習 ② ペアで紹介 ③ 全体で交流	●紹介するときのポイントを掲示する。 ●わかったことを自分で声に出すことによって、本から得た情報を確かなものにさせる。 ●実物投影機を使って、全員で共有できるようにする。
5，本時の学習の振り返りをして、次時の学習を確かめる。	●本時の活動をもとに、次時は自分が飼育、観察したい生き物についてカードに書くことを伝え、意欲を高めるようにする。

他教科との関連

道徳　「たすけて」3-(2)自然愛、動植物愛護
道徳　「ザリガニのあかちゃん」3-(1)生命尊重

国語　「どうやってみをまもるのかな」
目次の使い方や本の見方
付箋の使い方

生活科　「どきどき　わくわく！いきものはかせ！」

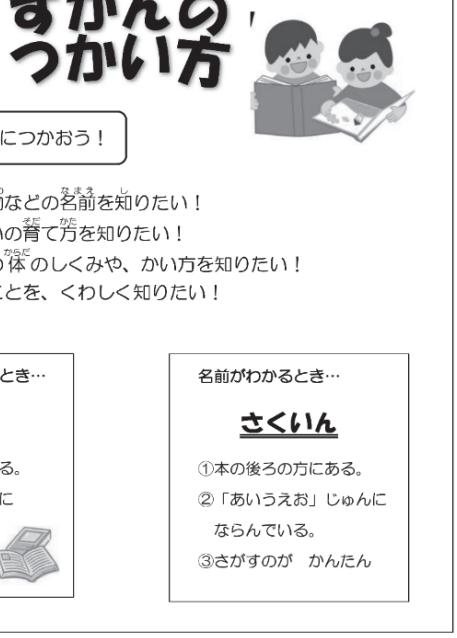
学級活動　「図鑑の使い方」

参考資料「図鑑の使い方」指導

1．どんなときに図鑑を使うと便利なのかを紹介する。

2．目次と索引について理解させる。
＜目次＞・前の方に書かれている。
・項目ごとに、ページの順番にのっている。
・名前がわからないときに使う。
＜索引＞・後ろの方に書かれている。
・五十音順に載っている。
・名前がわかっているときに使う。

3，図鑑を使って植物を調べさせる。
ペア、または３人組で、植物の名前を調べ、ワークシートに記入。



小学校 2年 **生活**

「クイズでつたえよう　まちのこと」
（「どきどき　わくわく　まちたんけん」東京書籍）

単元のねらい

・行きたい場所や会ってみたい人を決め、相手や場に応じた適切な行動や安全な行動を考えながら計画を立てて、町探検ができる。

つけたい情報活用能力

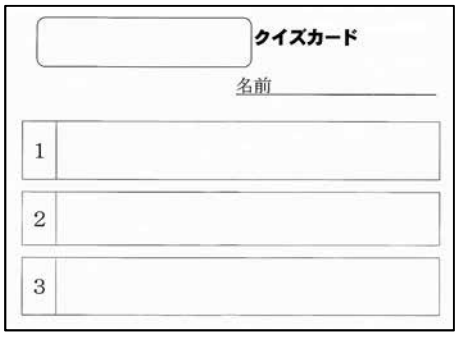
・インタビュー　・聞いたことをメモする　・伝えたい内容を選ぶ

単元の指導計画（全９時間）

次	時	主な学習活動	教師の支援（●担任◆司書教諭◇学校司書）
1	1	**◎まちのことを話そう** ○地域のことで知っていることや興味のあることや不思議に思っていることなどを紹介し合う。 ○知りたいこと、見たいことを話し合う。	●身近な地域の人々や様々な場所に興味がもてるよう、知っていることを、たくさん出させる。 ●意欲的に町探検できるよう、そこで見つけたことを、クイズにして紹介し合うことを確認する。
2	2	**◎まちたんけんの計画を立てよう** ○町探検のコースをグループで確認する。 ○町探検でのマナーやルールについて話し合う。 ○町探検カードの書き方を確認する。 ・友達に伝えたいと思ったことをくわしく書く。	●安全に気をつけて探検ができるようにするため、各グループのコースを地図で確認させながら、危険箇所や交通ルール、予想されるトラブルへの対応について押さえておく。 ●探検カードの情報がクイズ作りにつながることを伝え、意欲を高める。
3	3 4 5 6	**◎まちたんけんに行こう** ○グループ毎に計画に沿って探検する。 ○見つけた物や人、聞いたことや気づいたことを探検カードに書く。 情報の収集 ○どの場所からクイズを出すか、グループで話し合って決める。 情報の整理・分析	●事前に地域のボランティアの方と打ち合わせをしておく。 ・探検コース、帰校時間、予想されるトラブルと対処法 ・探検で訪れる場所と気をつけること ・記録写真とメモを取る、コースにある記念碑や文化財や珍しい物について説明すること
4	7 （本時） 8 9	**◎まちのことを伝えよう** ○伝えたいことを個人で選び、クイズカードに書き写す。 ○グループ内で話し合って分担を決める。 情報の整理・分析 ○クイズを作る。 ○クイズ大会を開き、クイズの感想や探検の振り返りを、絵地図にまとめる。 発表	●伝えたいことを整理・分析しやすくするため、探検カードに線を引かせてから、クイズカードに書き写させる。 ●自分の考えを表現しづらい児童の支援をする。 ◆◇資料の読み取りやクイズカードの書き方を支援する。 ●クイズが重ならないように助言する。 ●一番伝えたいことが伝わるようなクイズの出し方や答えの選び方を指導する。 ●クイズの感想や町探検の振り返りを絵地図にまとめることで、地域への関心が高まるようにする。

本時案 7/9

・自分がクイズにしたいことをグループの友達に伝えることができる。

主な学習活動	教師の支援（●担任　◆司書教諭　◇学校司書）
1，本時の目当てを確認する。 クイズを作って、みんなに伝えよう	●町探検で見つけたことを想起させる。 ●町探検クイズ大会のことを確認し、クイズ作りに対する意欲を高める。 ◇町探検の写真や一緒に行った大人のメモをまとめ、グループ毎の資料を準備する。
2，クイズにしたいことを各自で選ぶ。 ＜クイズカードの書き方＞ ①友達に教えてあげたいことに線を引こう。 ②線を引いたことから3つえらんで、クイズカードに書く。  	◆クイズカードの書き方について説明する。 ◆伝えたいことがグループで重なった場合に備えて、複数の候補を挙げさせる。 ●自分の考えを表現することが苦手な児童の様子を観察し問いかけながら考えを引き出すようにする。 ◇必要に応じて、昨年度までの作品を児童に提示する。 ◆◇主に、資料の読み取りやクイズカードの書き方で戸惑う児童に対して、一緒に資料を読んだり、どこに書くかを確認したりする。
3，グループで話し合って分担を決める。 ○誰が、どのクイズを出すか決める。 ○自分がクイズにすることを、赤で囲む。	●話し合いがうまく進まないグループについて、進行の補助をする。 ●◆◇クイズにしたいことが重複した場合、児童の伝えたいことから問題が作れるように、次のような声かけをする。 ① どちらかが譲って他のクイズにすることで、その場所のことを、もっとたくさん伝えることができるよ。 ② その事柄のどんなところをクイズにしたいのか、もっとくわしく話してみよう。（それぞれの思いの違いをはっきりさせる）
4，次時の活動の確認をする。	●次時は、クイズを作ることを伝える。

小学校 6年

音楽

「日本と世界の音楽に親しもう」
(「越天楽今様」「雅楽 越天楽」「楽器による世界の国々の音楽」)

単元のねらい

・日本に古くから伝わる音楽や世界の音楽に関心をもち、音楽の特徴や演奏のよさを理解し、楽しんで聴いたり、文化の違いに関心をもったりすることができる。

つけたい情報活用能力

・情報の収集、選択、まとめ　　・プレゼンテーションによる発表

単元の指導計画（全8時間）

次	時	ねらい	主な学習活動
1	1	・日本に古くから伝わる音楽に関心をもち、楽曲全体にわたる曲想を感じ取って聴いたり調べたりする学習に、主体的に取り組もうとする。 ・雅楽の楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴を聴き取り、楽曲全体にわたる曲想を感じ取って聴くことができる。	○雅楽「越天楽」を聴き、楽器の響きや曲想を感じ取る。 ・雅楽の楽器の音色や速度、リズム、旋律の反復などを感じ取って聴く。 ・気付いたことや感じたことを話し合い、雅楽についての理解を深める。 ・演奏形態や楽器について確かめる。 ・雅楽の響きを味わって聴く。
	2	・言葉のまとまりや語感、呼吸や発音の仕方に気をつけて、日本に古くから伝わるリズムや旋律に合う、自然で無理のない歌い方で歌うことができる。	○「越天楽今様」の歌詞の内容を理解し、発音や発声に気を付けて歌う。 ・「越天楽」と同じ旋律であることに気付く。 ・歌詞の意味を理解し、範唱に合わせて歌う。 ・楽曲分析をする。 ・情景を思い浮かべ、発音や発声に気をつけて歌う。
	3	・旋律、楽器の音色、リズム、速度などを聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さを感じ取りながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもって呼吸や発音の仕方、速度などを工夫することができる。	○日本に古くから伝わるリズムや旋律の動きを生かした歌い方を工夫して歌う。 ・言葉のまとまりや語感、リズムや旋律の動きに合う歌い方を工夫する。 ・日本に古くから伝わるリズムや旋律の動きを生かして工夫した歌い方で、のびのびと歌う。
	4	・世界の国々の音楽に関心をもち、それぞれの音楽の特徴を理解して聴く学習に、主体的に取り組もうとする。 ・楽器の音色、旋律、リズム、速度などの特徴やそれらの働きが生み出す音楽の雰囲気の違いから想像したことを言葉で表すなどして、世界各国の音楽の特徴やそれらが醸し出す雰囲気を理解し、味わって聴くことができる。	○それぞれの国の音楽の特徴や演奏のよさを感じ取って聴く。 ・音楽の音色の特徴や雰囲気の違いなどに気を付けて、繰り返し世界の音楽を聴く。 ・それぞれの国の音楽の特徴やそれらが醸し出す雰囲気について、聴き取ったり感じ取ったりしたことを話し合う。

	5	・世界の国々の音楽に関心をもち、それぞれの音楽の特徴を理解して、聴いたり調べたりする学習に主体的に取り組もうとする。	○関心のある世界の国々の音楽について調べる。 ・世界の国々の音楽を聴き、興味をもった国ごとにグループをつくる。 ・選んだ国の音楽について図書資料を活用して調べ情報カードに書く。
2	6 7	・世界の国々の音楽に関心をもち、それぞれの音楽の特徴を理解して、聴いたり調べたりする学習に主体的に取り組もうとする。 ・楽器の音色、旋律、リズム、速度などの特徴やそれらの働きが生み出す音楽の雰囲気の違いから想像したことを言葉で表すなどして、世界の国々の音楽の特徴やそれらが醸し出す雰囲気を理解して聴くことができる。	○グループで選んだ国の音楽についてまとめる。 ・選んだ国の音楽について、調べた情報を整理する。 ・整理した情報をフリップにまとめる。
	8	・楽器の音色の特徴やグループで調べた他の内容について伝え合うことを通して、世界の国々の音楽に対する理解を深めることができる。（本時）	○それぞれの国の音楽を紹介し合い、音楽の特徴を感じ取る。 ・グループごとに調べた国の音楽について紹介し合い互いに聴き取ったり感じ取ったりしたことを伝え合う。

本時案 8/8

・楽器の音色の特徴や他のグループの調べた内容について伝え合うことを通して、世界の国々の音楽に対する理解を深めることができる

学習活動	教師の支援（●担任　◆司書教諭　◇学校司書）
1. 前時までの振り返りをする。	●前時までに学習した世界のいろいろな国の音楽を振り返り、学習への意欲を高める。
2. めあての確認をする。 世界の国々の音楽を聴き、他の国の文化を知ろう	
3. グループごとに調べた国の音楽についてプレゼンテーションをする。 ○フリップを使いながら、プレゼンテーションをする。 ○それぞれの国の音楽の特徴や音楽を生み出した背景などについて、感じ取ったり聴き取ったりしたことを伝え合う。	●ICTを活用し、フリップが全児童に見えるようにする。 ●話し合いの際に、同じように感じ取ったり、違うように感じ取ったりしたことを明らかにし、再度音楽を聴いて確認できるようにする。 ●各グループが調べた楽器の素材や演奏する場などの相違点を比べることによって、音楽が地域独自の文化を背景として生まれていることに気付くことができるようにする。 ◆調べた際に活用した図書資料を準備し、必要に応じて提示する。 ◆児童の傍で、内容や思いを確認する。
4. 本時の学習の振り返りをする。	

中学校 2年

美術

「金色の効果を用いた表現を味わおう」

単元のねらい

・金を使った日本の絵画や工芸品を鑑賞し、良さや美しさを味わえる。
・金色の効果を生かし、主題をもとに、材料や方法を工夫して表せる。

つけたい情報活用能力

・必要な情報の収集、まとめる力　・収集した情報を表現する力

単元の指導計画（全7時間）

時	活動	主な学習活動
1	課題把握 鑑賞	○日本の美術作品には金を使った物が多くあり、その美術的価値に触れ、金屏風への描画による作品作りを行うことと、よりよい表現をしていくために美術作品鑑賞を行うことを知る。 ○鑑賞のルールを知る。 ○各自が選んだ作品について鑑賞し、印象や気づき、作品から推測できること、金の表現や作品の中での効果など、自由にワークシートに書き出す。
2	鑑賞 調べ学習 （本時）	○図書館資料を使って、作品について書いてある内容を整理し、ワークシートに記入する。 ○作品に金を使う効果などが書いてあればそれも調べて書く。 ○自分で感じたことや調べたことをグループで発表しあい、調べたり友達の発表を聞いたりして分かったこと、考えたこと、創作のヒントなどを発表する。
3 4 5 6	制作活動	○前時の鑑賞をふまえ、実際に金屏風に描く。 1. 日本の四季をイメージさせる題材を考える。 2. 屏風に収める構図を考える。 3. 金色のバックに映える配色を考える。 4. 平ぬりの技法を使い、ポスターカラーで着彩する。
7	鑑賞	○お互いの作品を鑑賞し合う。

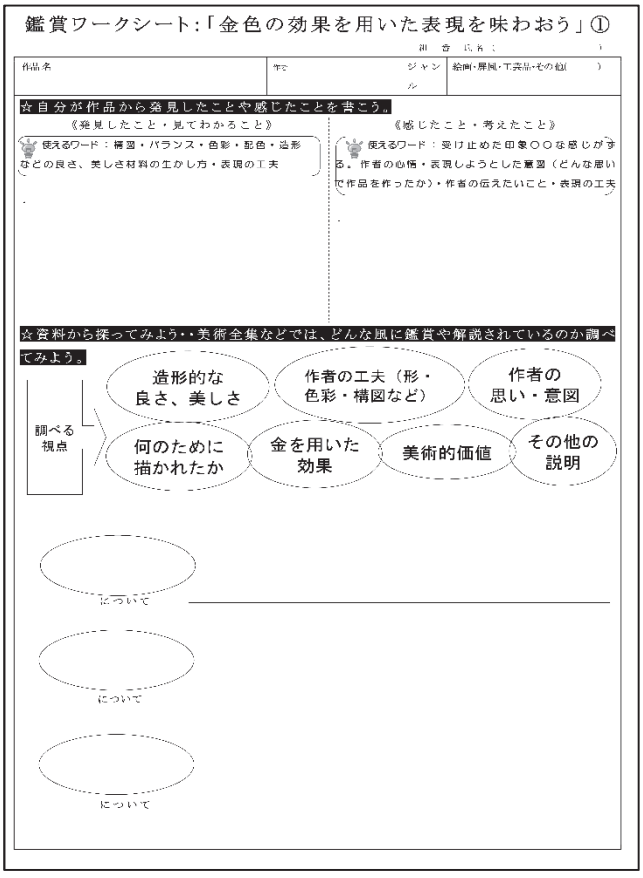
本時案 2/7

・自分の考えと比較しながら、図書資料を使い日本の美術作品や美術文化の特徴をつかむ。
・金の表現を足がかりとして、日本の美術作品や伝統、文化の良さや美しさに気づき、それらを味わい、自分の制作に生かそうとする。

学習活動	教師の支援（●教科担当　◆司書教諭　◇学校司書）
1. 学習目標と学習の流れを確認する。	●作品制作に生かすための鑑賞であることを伝え、意欲喚起につなげる。

学習活動	教師の支援（●教科担当　◆司書教諭　◇学校司書）
2. ワークシートの書き方について説明を聞き、前時に選んだ作品について、各自で調べたいことがらを考え、図書館資料を使い調べる。	◆読んでまとめる視点（鑑賞の視点）を与え、情報を収集しやすいように具体例を示す。　（下記　資料参照） ◇参考資料について説明する。
3. グループ内で絵について感じたことや調べたことを発表する。	●鑑賞と調べ学習を通して新たに分かったことや感じたことを書き留めさせ、創作に生きるよう声がけをする。
4. 作品鑑賞や友達の発表を通して、感じたことや創作に生かしたいことなどをワークシートに書き、数人の友達の発表を聞く。	●使用されている「金」の表現に、日本独自の思いや感覚があることを補足として付け加える。（宗教的、権力誇示的、装飾的、空間演出、時間演出）
5. 教師の作品における「金」の効果についての補足説明を聞く。	
6. 本時を振り返る。	●ワークシートにより今日の授業の振り返りを行わせる。

参考資料　「資料の読み方」「ワークシート」



中学校 1年

英語

「お祭り大好き」

（「Unit5」 NEW HORIZON English Course Book1）

単元のねらい

・名詞の複数形、「How many…?」の文とその応答、「Let's….」の文と命令文の形・意味・用法を理解し、「…しよう」と提案したり、「…してください」と申し出たり、「…しなさい」と指示したりすることができる。

つけたい情報活用能力

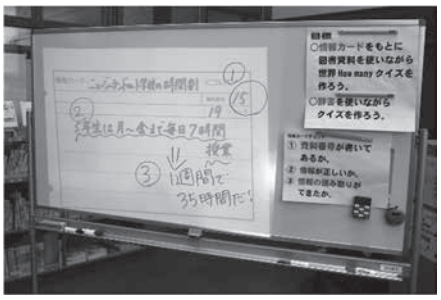
・情報の比較、選択する力　・情報カードの利用

単元の指導計画（全8時間）

時	ねらい	主な学習活動
1	・名詞の複数形の発音とつづりについて理解できる。	○名詞の複数形を使った様々な文を聞いたり読んだりして、その意味を推測する。 ○絵を用いた口頭練習を通して、複数形の発音に慣れる。 ○本文(p.44,45)を通して、名詞の複数形の発音とつづりについて知る。
2	・「How many…?」の文の形・意味・用法を理解できる。	○教師の言う「How many…?クイズ」を聞き、答える。 ○本文(p.46,47)を通して、「How many…?」を使った文の形・意味・用法を理解する。 ○「How many…?」を用いたインタビューゲームを通して、形・用法に慣れる。
3	・外国のさまざまな事物の数について、クイズになりそうな情報を集め、情報カードにまとめることができる。	○5つの地域ごとのグループに分かれて、数についてのクイズになりそうな情報を、本や資料から収集する。 ○収集した情報は情報カードにまとめる。
4（本時）	・外国のさまざまな事物の数について、情報カードを活用しながらクイズを作成できる。	○情報カードを比較・選択する。 ○グループ内でアドバイスし合い、クイズを作成する。 ○グループで次時のクイズ大会の準備を行う。
5	・外国のさまざまな事物の数についてのクイズ大会を行う。	○グループごとにクイズを出し合い、答え合う。 ○問題に関する質問をし合い、答え合う。
6	・命令文の形・意味・用法を理できる。	○命令文を使った様々な文を聞いたり読んだりして、意味を推測する。 ○教科書(p.48,49)を通して、命令文の形・用法を理解する。 ○絵を用いた口頭練習を通して、命令文の形・用法に慣れる。
7	・店での注文および支払いのやりとりができる。	○ペアで店員役とお客役になり、店での注文の対話を練習する。
8	・店での注文および支払いのやりとりができる。	○店員のタスクカードと、客のタスクカードを引き、カードに書かれている内容に基づいたタスクを行い、練習する。

本時案 4/8

・辞書や情報カードを活用してクイズを作ることができる。

主な学習活動	教師の支援（●教科担任　◆司書教諭　◇学校司書
1. 本時の目標と活動の流れを知る。 ○ 情報カードをもとに、図書資料を使いながらクイズを作ろう。 ○ 辞書を使いながらクイズを作ろう。	●本時の学習に見通しがもてるように、目標と活動の流れを提示する。
2. 世界「How many…?クイズ」の例を知る。 How many lessons? (1 week) A: 20 lessons B: 29 lessons C: 35 lessons	●クイズ作成のイメージをもたせるために、情報カードを活用して作ったクイズの例を示す。 ◆情報カードの活用の仕方を示すために、図書資料とそこから読み取った情報を紹介する。 
3. どのような情報がクイズの問題の材料になりうるか、観点を知る。	●「面白い、または興味をそそられる情報」、「ものや人の数に関する情報」が今回のクイズ作成に有用な情報だということを伝える。
4. 情報カードを確認し、情報を補足したり、削除したりする。	◆情報カードを活用させやすくするために、情報が正しいか、また情報の読み取りは正しいかを図書資料で確認させる。
5. 情報カードを活用して、情報を比較・選択する。	●◆◇情報カードをもとに、図書資料を参照させながらクイズになりそうな内容を選択できるよう、アドバイスを行う。
6. 情報カードを活用してクイズを作成する。 	◆◇ 複数形のつづりがわからない生徒には英和辞典の使用を促す。 ●つづり等正しく書けているか、ひとりひとり確認する。
7. グループ内で各自が作成したクイズを出し合い、次時のクイズ大会で出題するものを選ぶ。	●生徒が積極的に出題できるよう、複数形の発音がわからない場合は質問を受けることを伝える。
8. 本時の活動を振り返る。	◆情報カードの活用について良かった点や気になった点を伝える。 ●活動全体を通して、良かったところを具体的にあげて確認することで生徒の次時への意欲を高めるようにする。

小学校 4年

総合的な学習の時間

「北陽生き物たんけんたい ～ビオトープの活動を伝えよう、広めよう～」

単元のねらい

・「たくさんの子どもたちに学んでほしい」という、地元の方の願いを受けて自分たちができることを考え、工夫してまとめ、たくさんの人に伝えることができる。

つけたい情報活用能力

・課題設定　・情報の収集、整理、分析　・インタビュー
・情報の選択　・まとめ

単元の指導計画（全 70 時間）

小単元	小単元の学習課題と学習活動	予想される子どもの思いや願い
1	**北陽の自まんを見つけ、考えよう** 8 時間 ○北陽校区にあるまちの自慢を見つけ、北陽校区の良さを再確認する。 ○公共機関やお店、住宅地が多いという便利な面と、田んぼや川など自然が多いという田舎的な面を両方持つ地域であることを知る。 ○人口や住宅地が増えている事実と、残っている豊かな自然を大切にする気持ちをもつ。	○自分たちのまちのよさは何だろう。誰かに聞いてみよう。調べてみよう。 ○便利で嬉しいけど、自然が多いのはやっぱりいいな。
2	**北陽地区で自然を守ろうとしている人の活動をもっと広めよう** 20 時間 ○生き物博士 T さんと出会い、生き物に興味を持つとともに、T さんの作った生き物の住み家ビオトープに興味を持つ。 ○ビオトープで生き物をとる体験を通して、自然の豊かさや生き物の面白さ、そして、ビオトープの良さを感じる。 ○ビオトープの活動をしている T さんの思いを知り、川跡ビオトープのために自分たちができることを考える。 ○「川跡ビオトープにもっとたくさんの人が行って学んでほしい。」という願いを持ち、広める方法を考える。 ○ビオトープ発表会をなぜ行うかという目的意識と、誰に対して行うかという相手意識を持ち、計画して準備を行う。 ○計画の見通しを持つ。	●生き物博士、T さんとの出会い。 ●ビオトープでの活動 ○生き物の住み家になっているビオトープって一体なんだろう。 ●オリジナルブックの目的とは？問い直す。 ●T さんにもう一度どんな思いを持っているか聞こう。 ○T さんの思いは何だろう。川跡ビオトープのような素敵な取り組みをもっと広めるにはどうしたら良いだろう。 ○1～3年生が行きたいと思えるような発表会がしたい。
3	**発表会の準備をしよう・発表会を開いてビオトープの活動をもっと広めよう** 25 時間	○それぞれのグループで1～3年生が喜んで聞いてくれる内容は何だろう。

	※本小単元 ○発表の方法を考えたり、何を伝えるかをみんなで考えたりする。それぞれの担当を決め、そのための取材を行ったりする。ビオトープへの取材へ行く。 ○1～3年生への発表する相手意識を持ち、楽しんでもらえるような発表の工夫を考える。（自分の担当の工夫、全体の工夫。） ○ゴビウスへ行き、展示の仕方や調べている生き物について知識を広げる。 ○プレ発表会で 1 組・3 組、T さんらにアドバイスをもらい、より良い発表会にする話し合いを行う。 ○たくさんの人に来てもらえる工夫を考える。 ○1～3年生を招待して発表を行う。	○プレゼンテーションの仕方を学んで、楽しみながら学べる工夫を考えたい。 ●プレゼンの仕方を学ぶ学習。 ●ゴビウスの展示の工夫、人が来る工夫を知ろう。ゴビウスに行こう。 ●プレ発表会にビオトープを知っている人を呼ぼう。アンケートをとろう。 ○アドバイスをもらって、より良い発表会にしたい。
4	**もっとたくさんの人にビオトープの活動を広めよう**　17時間 ○1～3年生に発表をして、さらに自分たちでできる川跡ビオトープを広める方法を考える。 ○発表という形だけでなく、様々な形で広める活動を行っていく。	○もっとたくさんの人に知ってもらいたい。（幼稚園、大人） ○発表だけでなく、ポスターや看板などで広める方法もある。

小単元の指導計画（全 25 時間）

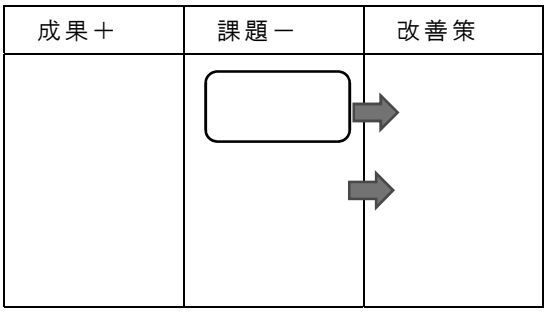
	子どもの問題意識・学習活動	教師の手立て
1 2 3	**ビオトープ発表会の準備をして、発表会を開こう** **＜全 25 時間＞** 発表会で自分たちが伝えたい内容を決めよう ○1～3 年生が行きたいと思うような内容を考え、ビオトープの活動から自分たちの伝えたいことを絞っていこう。	**本単元に臨む子どもの姿** 子どもたちは、生き物の棲み処ビオトープを作った T さんの「たくさんの子ども達にビオトープに来てほしい」という思いを受け、1～3年生がビオトープに行ってみたいと思えるような発表をしようと発表会を計画し、準備し、発表会への意欲を高めている。 ●伝えたい内容をブレーンストーミングで挙げ、それをくま手チャートで絞っていく。
4 5 6 7	決まった内容をそれぞれの担当に分かれて、詳しく調べよう 決まった内容 ○川跡ビオトープについて ○ビオトープの生き物 ～メダカ・ザリガニ・珍しい魚～ ○ビオトープの水生昆虫 ○ビオトープの水生植物 ○季節ごとの生き物の様子 ○T さんについて	●1～3 年生に伝える内容の視点 ①伝えることによって伝える人が笑顔になる ②私たちにしかできないこと を常に意識して内容を考える。決してひとりよがりなものにならないようにさせる。

	・図書館で調べられることと調べられないことがある。 ・川跡ビオトープの情報はインターネットでは少ないな。 ・川跡ビオトープならではの生き物についてもっとしりたい。 ⇩ ・ビオトープに行って調べないといけないな。	●情報収集する中で、現地にいかなければわからないこと、T さんに直接聞かなければわからないことなどを整理する。KWLチャートで自分の思考を整理しやすくしておく。
8 9	効果的な発表の仕方を考えよう ＊自分が発表を聞くとしたら、体験的な発表がいいな。 ＊1～3年生が聞くから、楽しくてわかりやすい発表がいいな。紙芝居があるといいな。 ＊自分たちの調べた情報を載せた模造紙を使って、ポスターセッションがしたい。 ○川跡ビオトープ⇒ポスターセッション・ワークショップ ○ビオトープの生き物⇒ポスターセッション・実物展示 ○水生昆虫⇒ポスターセッション・立体模型を使った説明 ○水生植物⇒ポスターセッション・実物展示 ○季節ごとの生き物の様子⇒ポスターセッション・紙芝居 ○T さん⇒ポスターセッション・写真展	●学校司書と連携をとり、どんな発表スタイルがあるか様々なものを提示するとともに、効果も考えられるようにする。
10	発表会の計画を再確認しよう	●全員で確認し、共有させる。
11	発表の流れを考えよう ＊どんな順番で発表したらいいのかな？わかりやすくなるかな？どんな資料がいるのかな。	●流れがわかるワークシートを使って、ストーリー作りを行う。流れの中で、どのような資料が必要かを見出せるようにする。
12	プレゼンテーションの仕方を学ぼう	●国語「報告します、みんなの生活」「みんなで新聞を作ろう」と関連付けて学習する。見出しやレイアウトなどの言葉を再度おさえる。 ●プレゼンテーションの効果についての資料を作成する。その際に使用する資料の作り方についても丁寧におさえる。
13 14 15 16 17	資料を作成し、発表の練習をしよう	●相手意識を持ち、発表の聞き手があきないような効果的な発表の仕方を意識しながら発表練習をさせる。 ●資料が効果的に使われているかなど、お互い見合ってより良い発表を目指させる。
18	プレ発表会を開こう	●T さん、I さん、司書教諭、学級司書 N さん、4年 1 組や 3 組を招待し、見てもらい、率直な感想をもらう。
19 20	アンケートから改善策を見出し、さらによい発表にしよう （本時）	●アンケートをもとに個人で成果や課題を整理する。個人でまとめた後、グループでしなければならない改善策に優先順位をつけて考えさせる。
21 22	改善点を踏まえて発表練習をしよう	●もらったアドバイスを生かして発表練習をさせる。

23 24 25	発表会を開こう	●1～3 年生の実態を踏まえ、相手意識をもって発表させ、主体的に活動できるようにする。

本時案 48/90

・プレ発表会のアンケートから見出した成果と課題をグループで分類したり、関連付けたりしながら整理し、改善策を考えることを通して、川跡ビオトープの魅力を見つめ直し、本番の発表会をよりよくしようとする意欲を高める。

	主な学習活動と予想される児童の反応	教師の支援
めあての確認／課題をつかむ／ふかめる／ふりかえる	＜前時まで＞ ・プレ発表会を行い、自分たちが見てほしい視点で考えたアンケートをとっている。それをもとに個人で成果と課題について考えてふせんを書いている。	●本時の課題、学習のゴール、学習の進め方を確かめる。
	プレ発表会で出てきた意見をもとに、1～3年生が行きたくなるような、よりよい発表会にするための改善策を考えよう	
	1,前時の振り返りをもとに、アンケートから読み取って書き出した成果と課題のふせんを各グループで出し合う。 *実物を使った説明が良かった。 *クイズが楽しかった。 *もっと詳しく説明してほしかったとあった。 *言いたい事がよくわからなかったとあるよ。 *もっと大きい声で、ゆっくりと。 *さらに写真がもっとあるとわかりやすい。	●自分たちの担当のコーナーのアンケートをもとに情報整理して感じたことや考えたことを発表するなかで、よりよい発表会にするための改善点を出し合うことを確認する。 ●個人で読み取ったアンケートから成果と課題をふせんに書いている。そのふせんをそれぞれが出し合って、情報をまとめていく。その際に、成果と課題をグループ分けする。課題に対しては改善策を考えていく。
	2，グループで出し合った成果と課題をまとめる。 その際に成果や課題をそれぞれの視点に分けて考え、改善策を見出す。	
	3，課題から考えられる改善策で特に必要感のあるものを各グループで考えて、発表する。	●考えた改善策を提示する。
	4，本時を振り返り、次時はこれらを生かして発表を改善していくことを確認する。	

中学校 1年　総合的な学習の時間

「世界遺産『石見銀山』を調べよう」

単元のねらい

・地域の人々とも交流を深めながら、世界遺産に登録されてからの変化について調べ、これからの『石見銀山』のあり方について考え、石見銀山の魅力の再発見と共に発信する態度を育てる。

つけたい情報活用能力

・課題設定　・情報の収集、整理、分析　・インタビュー
・情報の選択　・まとめ、発表　・著作権（出典）

単元の指導計画（全 21 時間）

時	内容	主な学習活動	情報活用能力
1	オリエンテーション	○石見銀山学習の趣旨を聞き、目標確認をする。 ○今後の学習内容および時間の確認をする。	
2	班編成	○学習テーマ(世界遺産と石見銀山、世界遺産の人々のくらし、石見銀山遺跡、石見銀山と観光客、石見銀山の歴史)を示し、調べたいテーマに応じて班を編成し、班における役割分担を決める。	
3	課題設定	○テーマにおける課題(石見銀山の魅力は何か、なぜ世界遺産になったのか、世界遺産に登録されてからどんな変化がおきたか)について仮説を設定し、調べたい内容を明らかにする。	★課題設定
4 5	調べ学習や現地学習の計画	○課題解決のために何を調べたらよいか、どこに行けばよいか、誰にインタビューをするかを考え、現地での行程を作成する。	
6 7	課題解決のための調べ学習1	○課題に基づいて図書を使って調べる。 ○調べたことを情報カードにまとめる。	★目次･索引の利用 ★出典　★情報の収集、分類、整理
8	課題解決のための調べ学習2（本時）	○情報カードから要点を絞る。 ○情報カードをもとに、分かったこと、疑問に思ったこと、更に調べたいことを確認する。	★情報の整理
9 ～ 14	現地学習	○班で解決したい課題について、現地で調べる。	★インタビュー
15 ～ 17	調べたことのまとめ	○現地で調べたことを整理する。 ○課題解決のために必要な情報を取捨選択する。 ○これからの大田市について考える。	★情報の整理 ★情報の加工
18 ～ 21	文化祭での発表に向けて	○効果的な表現、伝達方法を知る。 ○発表の流れを考える。 ○発表の練習をする。	★情報の表現･伝達

本時案 8/21

・これまで集めてきた情報を整理して「わかったこと」を班で共有し、新たに「疑問に思ったこと」「調べたいこと」を明らかにし、現地学習に見通しをもつことができる。

	主な学習活動と生徒の反応	教師の支援（●担任 ◆司書教諭 ◇学校司書）
導入	1，本時の学習のねらいを知る。 これまで集めた情報を整理して、「わかったこと」をまとめ，新たに「疑問に思ったこと」「調べたいこと」を明らかにして現地学習につなげよう。	●全員の協力で多くの情報が集まったことを伝え、協働的な学習であることを意識させる。
展開	2，これまで集めてきた情報カードから、「わかったこと」を付箋に記入し、情報を整理する。 ＊○○さんと内容が似ているな。 ＊自分の調べたことより、○○さんの方が詳しいな。 ＊付箋にどう書いてよいかわからない。 3，整理された「わかったこと」を見て、「疑問に思ったこと」「調べたいこと」を付箋に書き出し、意見を共有する。	◆「わかったこと」のまとめ方について説明する。 ・情報カードからキーワードを中心に付箋に書くようにする。 ・1枚の付箋に1つの情報を書く。 ・付箋に書いた内容を模造紙に説明しながら貼る。 ・似た内容ならば、他の者もその傍に意見を述べながら付箋を貼る。 ・付箋の集まりから、「わかったこと」を整理する。 ●「わかったこと」と同様の方法で意見をまとめていくが、現地学習の視点でもグルーピングさせる。 ◇現地学習で調べられない場合、新たにどのような図書資料を調べたらよいかをアドバイスする。
終末	4，本時のまとめとして、現地学習のワークシートに記入する。	●現地学習の見通しが持てるようにする。

「模造紙の割り付け案」

世界遺産	仮説：	
分かったこと	疑問に思ったこと	調べたいこと
情報カードより抜粋した付箋	疑問に思ったこと付箋 グルーピングをする	調べたいこと付箋 グルーピングをする
整理	整理	整理
・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・